

論文 | Articles

## 学習漫画と考古学

### Study Comics and Archaeology

櫻井 準也

SAKURAI, Junya

尚美学園大学  
総合政策学部

Shobi University

2019年6月

Jun.2019

# 学習漫画と考古学

櫻井 準也

## Study Comics and Archaeology

SAKURAI, Junya

### Abstract

In this paper, I examined the history and the feature of Japanese history study comics from the view point of archaeology. As a result, children-oriented Japanese history study comic series appeared late in the 1960s, and they spread through the 1980s in Japan. Although they were explanation and description types in the mainstream till the 1980s, it turned out that they which were focused on the story increased from around the 1990s. And the series which appointed the popular comic characters in the work appeared from the middle of the 1990s. Then, archaeologist created the draft proposal around or the series which archaeologist supervises increased from the end of the 1980s, and the archaeological sites of new discovery and the results of archaeological research came to be taken in the study comics. However, as the result, the evil in which the archaeological sites and remains of "Japanese Paleolithic hoax" were introduced was born.

### 要旨

本稿では、考古学の立場からわが国の日本史学習漫画の歴史とその特徴について検討した。その結果、子ども向けの日本史学習漫画シリーズは1960年代後半に登場し1980年代になってわが国に普及したこと、それらは1980年代頃までは説明・解説型が中心であったが1990年代頃からストーリー重視の作品が増え、1990年代中頃からは人気の漫画キャラクターを起用したシリーズが現れたことがわかった。その後、1980年代末頃から考古学者が原案を作成したり考古学者が監修するシリーズが増加し、新発見の遺跡や考古学の研究成果が学習漫画に取り入れられるようになった。しかし、その結果「旧石器捏造事件」の遺跡や遺物が紹介されるという弊害を生むことになった。

### キーワード

学習漫画 (Study Comics)

日本史 (Japanese History)

先史時代 (Prehistory)  
監修者 (Editorial Supervisor)  
旧石器捏造事件 (Japanese Paleolithic hoax)  
漫画キャラクター (Comic Character)

## はじめに

わが国は世界的に知られた漫画大国であり、子どもから大人まで漫画<sup>(1)</sup>に親しんでいる。しかし、わが国の漫画が現在に至るまでの道筋は平坦なものではなかった。戦後の1950年代に赤本漫画が社会問題化し(竹内1995)、悪書追放運動によって漫画が「悪書」あるいは「不良図書」・「俗悪図書」として位置づけられ、その後漫画が普及して市民権を得た1960年代になっても「ハレンチ学園」に代表される特定の漫画が批判の対象となっていたのである(山田2003)。こうした歴史を経てわが国に漫画文化が定着・発展していったが、その背景には、当時の子どもたちが大人になっても漫画を卒業しなかったことがあげられ、電車の車内で大人が漫画を読んでいる世界的に珍しい光景がわが国ではみられる<sup>(2)</sup>。また、青年漫画や少女漫画、劇画などの登場によって、わが国の漫画のジャンルは一気に多様となり、今日では歴史を題材とした漫画作品も数多く存在するようになった。当然のことながら考古学にとってもわが国のポピュラー・カルチャーの一分野である漫画の存在は無視できないものである。筆者は以前に戦後の漫画作品に描かれた考古学者像について検討した際に、作品に登場する考古学者の多さに驚いたが(櫻井2015～2018)、こうした漫画作品に描かれる遺跡や考古学者のイメージが一般の人々に与える影響は大きいと思われる。

これに対し、考古学の分野では1990年頃になると各地の教育委員会や埋蔵文化財センターが漫画に注目し、地域の歴史あるいは遺跡や考古学について気軽に学んでもらうため、イラストではなく漫画を使用した刊行物が作られるようになった。1990年から刊行された神奈川県大和市の『まんが大和の歴史』シリーズ(第1巻 先土器時代、第2巻 縄文・弥生・古墳時代、第3巻 奈良・平安・鎌倉・室町・戦国時代、第4巻 江戸時代、第5巻 明治・大正・昭和時代)、2001年から刊行された千葉県市原市埋蔵文化財センターの『発掘ってなあに』シリーズ(創刊号 住居跡篇、第1号 貝塚篇、第2号別冊 なるみちゃんの貝輪教室、第3号 縄文土器篇、第3号別冊 なるみちゃんの土器づくり教室、第4号 弥生土器篇、特別号 発掘のしごと篇)などである。こうした試みは当時の考古学界で話題になったが、漫画を使用して日本の歴史や考古学を学ぶという点では1960年代頃から大手の出版社から次々と出版され、筆者自身も小学生時代に愛読

(1) 学習漫画は「学習まんが」や「学習マンガ」と表現されることもあるが、本稿では当初から使用されている「学習漫画」で統一し、「まんが」や「マンガ」を「漫画」と表現することとした。

(2) しかしながら、漫画の単行本の販売部数はそれほど減っていないものの漫画雑誌の売り上げは大きく減少している。その背景にデジタルコミックの普及があり、現在の電車の車内の光景は急激に変化している。

した学習漫画の影響が大きいことは想像に難くない。

そこで本稿では、わが国の日本史学習漫画シリーズを紹介しながら、その体裁や内容などについて主に考古学の立場から詳細に検討し、若干の考察を加えてみたい。

## 1. 学習漫画とは何か

### 1.1 わが国の学習漫画

学習漫画とは、文章だけではなく漫画を使って読者にその内容を学習させる漫画のジャンルである。わが国の学習漫画の歴史は古く、1939（昭和14）年から『東日小学生新聞』に連載された秋玲二による「よっちゃんの勉強漫画」（4コマ漫画）がその元祖とされている（清水2009、伊藤2013）。秋は戦後になると、同シリーズ以外にも「サイエンス君の世界旅行」シリーズ（1961～63年）や「クラブ君の冒険」（1964～65年）などを出版している。また、当時の有名漫画家では、横山隆一が1938（昭和13）年に中央公論社の『科学漫画』シリーズとして「ボンちゃんの悪戯日記」を出版し、戦後になると手塚治虫が「漫画生物学」や「漫画天文学」を学習研究社の『中学初級コース』および『中学二年コース』に連載している（伊藤2013）。そして、1980年代になると有名漫画家による学習漫画が多く出版されるようになる。具体的には、赤塚不二夫が大人向けの学習漫画『ニャロメのおもしろ数学教室』（赤塚1981）をパシフィカから出版してヒットさせ、手塚は中央公論社版『世界の歴史 全15巻』（手塚監修1983～85）を監修し<sup>(3)</sup>、石ノ森章太郎は1986年に日本経済新聞社から『マンガ日本経済入門』（石ノ森1986）を出版している。その後、中央公論新社の『マンガ日本の古典1～32巻』（中央公論新社1999～2001）で22名の著名な漫画家が『古事記』や『源氏物語』など日本の名作古典を描き、同様に小学館も漫画家6名による『マンガ古典文学1～8巻』（小学館2013～2014）を刊行するなど、著名な漫画家による古典文学の漫画化が実現した。

これに対し、大手出版社が企画・発行している学習漫画<sup>(4)</sup>は、扱う分野から歴史系（日本史、世界史）、地理系、古典作品、人物伝（伝記）、理科系、産業系などに区分できるが、この中でも比較的古くから存在し、企画する出版社数も多いのが歴史系や人物伝（伝記）、そして理科系の分野の学習漫画である。このうち歴史系の学習漫画については、本稿で歴史系（日本史）学習漫画について検討するが、歴史系（日本史）学習漫画といっても様々なジャンルがある。一般的にはわが国の先史時代から現代までを扱う日本史学習漫画シリーズが著名であるが、その他にも年表形式のもの（平野他1988、笠原他1993）や遺跡・世界遺産・歴史的人物を取り上げたもの<sup>(5)</sup>など様々である。

また、学習漫画の講読年齢層は、児童（小学生）や生徒（中学生・高校生）であるが、最近で

(3) これらの作品は、従来のように歴史上著名な人物や英雄が主人公となっていないユニークな作品となっているが、手塚は「あとがき」でタイムマシンに乗った博士と助手の子どもという設定ではなく、「狂言まわし」として地球の進化の歴史を見守った二人のE・Tという役を登場させ、主人公も英雄豪傑ではなく庶民の中から無名の一人を選んで主役にして民衆の歴史というカラーを出したと述べている。

(4) 集英社は「学習漫画」、小学館は「学習まんが」、学研は「学研まんが」と呼称しているが、集英社は2015年頃から「学習まんが」という呼称を採用している。

は大人をターゲットにした学習漫画も数多く出版されている。当初は子どもが読者対象であった学習漫画であるが1980年代頃から大人向けの学習漫画が登場し、現在では漫画で描かれた様々な分野の入門書やマニュアル本がわが国に氾濫している。学習漫画の内容や設定については多岐にわたるが、当初は主人公の男の子と女の子の他に解説役の大人（博士など）がいる場合が多かった。また、伝記やドラマ仕立てのもの、恐竜などの特定の分野に特化したものなど様々である。こうしたなか、わが国では古くから日本史学習漫画が世の中に浸透しており、小学館の『学習まんが 少年少女日本の歴史』（全24巻）の累計発行部数が2000万部を越えたというデータが示しているように、わが国において日本史学習漫画は不動の人気を誇っている。

## 1.2 研究史料としての学習漫画

漫画を題材とした研究は心理学や社会学、さらには2001（平成13）年に日本マンガ学会が設立されたマンガ学などの新たな分野で研究成果が蓄積されている（磯貝1964、浜田1973、村田1993、向後<sup>男</sup>・向後<sup>女</sup>1998、家島2007、米谷2009、伊藤2013、尾濱・阿部・宮崎2017など）。このうち心理学における研究分野としては、漫画を学習教材として扱う研究（教育心理学領域）、漫画の読みに関する研究（認知心理学領域）、思春期心性に関連させた研究（臨床心理学領域）、その他（社会心理学領域など）に区分されるが（家島2007）、学習漫画との関連では、漫画を学習教材として扱う教育心理学研究の成果として、漫画によって学習内容の理解が保持されやすくなることや漫画学習におけるストーリーの役割の重要性などが指摘されている点が注目される。

これに対し、歴史教育という観点から学習漫画を史料として扱うことも可能である。例えば最近の興味深い研究例では、橋本明子が比較文化の視点から日本人の約70年前のアジア太平洋戦争の敗戦が戦後どのような日本人に伝えられ、継承されてきたかを文化的トラウマ、記憶、国民アイデンティティという観点から論じている（橋本2017）。その中で橋本は、「戦争と平和の教育一子供にどう第二次世界大戦を教えるか」という章において、「上からの歴史」として現在の高校の教科書において戦争と平和がどのように記述され、次世代に伝えてようとしているかを詳細に分析している。そして、同様に「下からの歴史」の事例として取り上げられているのが学習漫画であり、橋本は「学校図書館や公立図書館、書店などでよく目にするこうした学習漫画は、子供に戦争を認知させ、戦争記憶の継承を促すという点ではテレビやアニメ映画に引けを取らな

- (5) 例えば、世界の著名な遺跡を取り上げた理論社の『まんが世界のふしぎ物語』シリーズ（全10巻、たかし（原作）、吉川（画）1991）、世界遺産を扱い監修者本人が登場する集英社の『すばらしい世界遺産 古代遺跡の旅』（吉村（監修）、深沢（画）1999）がある。さらに、歴史の人物を扱った学習漫画では「クレオパトラ」や「卑弥呼」（佐原（監修）・あおむら（画）1995など）が複数の出版社から出版されているが、考古学者「ハワード・カーター」（吉村（監修）、西（画）2011）、さらには「縄文人の生活」（佐原（監修）・あおむら（画）1984）という人物系学習漫画も存在する。また、暮らしや経済活動の視点から日本の歴史を考える、ぎょうせいの『まんがおもしろ日本史 人々の暮らしと経済』（全3巻、伊藤（監修）、堀江（画）1996）もユニークな日本史学習漫画である。これに対し、学習漫画ではなく「歴史まんが」というジャンルではあるが、学習漫画的要素の強い作品として福武書店の『歴史まんが「古代の日本」』シリーズ（全2巻、大塚（総監修）、村野（画）1993、熊野（監修）、村野（画）1993）、さらには日本史を題材とした四コマ漫画である実業之日本社の『ねこねこ日本史』（そにし2014～2018）も学習漫画的要素を含む作品である。

い。新聞や雑誌、書籍、小説、テレビ番組、映画などのメディアも子供の道義観や道徳心を育むという点では大きな役割を果たすが、学校や家庭で気軽に楽しみながら抵抗なく読めるという点では、学習漫画は特段の注目に値するだろう」(143頁)と学習漫画の影響力を評価している。ここで取り上げられている作品は「学習用」歴史漫画および「大衆的」歴史漫画であり、「学習用」歴史漫画では『学研漫画 日本の歴史』(学研1982)、『小学館版学習まんが 少年少女日本の歴史』(小学館1983)、『集英社版学習まんが 日本の歴史』(集英社1998)、「大衆的」歴史漫画では藤子・F・不二雄の「ドラえもん」シリーズ(小学館2013)、水木しげるの『コミック昭和史』(水木1995)、そして石ノ森章太郎の『マンガ日本の歴史』(石ノ森1997~1999)が分析対象となっている。

このうち「学習用」歴史漫画については、アジア太平洋戦争に1巻分(約150頁)を割き、そこには敗戦に向かう破壊的な戦争が描かれており「勇気凛々たるリーダー」は登場せず、好戦的な人物や行動は批判的に、平和を愛する人物や反戦的な言動が好意的に描かれていると指摘している。また、分析対象とした3社のうち2社(小学館と集英社)では東アジアや東南アジアの民間人を虐げたことが記述され、「南京事件」も取り上げられるなど戦争についての最低限の概要が示されているが、学研版については戦争や植民地での抑圧に対して「罪悪感を抱かせない内容」(ただし好戦的部分や親軍的部分はない)になっていると指摘している。次に、「大衆的」歴史漫画については、藤子・F・不二雄作品の「ドラえもん」というお馴染みのキャラクターが進行役となっているため小学生を負の歴史の学習へ向けさせるのに効果的な作品であると指摘し、水木しげるの作品は国民に不要な戦争を経験させた国家と軍隊に対する告白の書と位置づけている。これに対し、石ノ森章太郎の『マンガ日本の歴史』には人気キャラクターは登場しないが、その代わりに市井の人々を登場させ戦時下の様々な思いを語らせる方式をとっており、漫画界の大御所による歴史漫画の成功は「国家の教育制度の領域外でつくられる文化的な記憶の力強さを示している」(155頁)と評価している。こうした橋本の分析は分析対象とした漫画に限られており、作品群の歴史的・系統的な分析という点で若干難点はあるが、歴史教育という観点から学習漫画に着目して分析を試みた点は高く評価できる。

## 2. 日本史学習漫画

### 2.1 その変遷と特徴

わが国はじめての子ども向けの日本史学習漫画シリーズである集英社の『学習漫画日本の歴史(全18巻)』(和歌森(監修)、カゴ(画)1967)が発行されたのは1967(昭和42)年のことである<sup>(6)</sup>。この年は漫画雑誌『COM』が創刊されて手塚治虫の「火の鳥」(黎明編)が掲載され、『週刊少年マガジン』では赤塚不二夫の「天才バカボン」の連載が始まった年にあたる。わが国では既に1959年に『週刊少年サンデー』や『週刊少年マガジン』、1963年に『週刊少年キング』、『週刊少女フレンド』、『週刊マーガレット』が次々と創刊されており、1960年代の終わりは「空前のマンガブーム」と言われた時期にあたり、この流行を子どもの歴史学習に結び付けようとしたのがこ

(6) 講読対象は小学4年生から中学生で、日本ではじめてのたのしい歴史副読本という位置づけである。



のシリーズであると言える。また、集英社では1971（昭和46）年に中学生・高校生向けの『漫画日本史（全5巻）』（ムロタニ1971）を刊行している<sup>(7)</sup>。そして1980年代になると多くの日本史学習漫画が発行されるようになる。1981（昭和56）年には小学館から『小学館版学習まんが 少年少女日本の歴史（全22巻）』（児玉（監修）、あおむら（画）1981）、1982（昭和57）年には集英社の『集英社版学習漫画 日本の歴史 第二期（全18巻）』（笠原（監修）、久松（画）1982）、学研から『学研まんが 日本の歴史（全16巻）』（樋口（監修）、伊東（画）1982）が刊行されたが、このうち小学館版はシリーズ累計2000万部を越え、1980年代の「まんが日本史ブーム」を作ったとされる作品である。

その後も1987（昭和62）年に大月書店の『まんが日本の歴史（全12巻）』（加藤・黒羽・吉村（監修）、向中野（画）1987）、1988（昭和63）年に学校図書の『新まんが日本史（全3巻）』（鳥海（監修）、巴（画）1988）、あかね書房から年表形式の『まんがで学習 年表日本の歴史（全5巻）』（平野（監修）、カゴ・ムロタニ他（画））が刊行された。こうしたなか1989（平成元）年に中央公論社から日本漫画界の巨匠である石ノ森章太郎による『マンガ日本の歴史（全55巻）』（石ノ森1989～1993）が刊行され、シリーズ累計800万部を売り上げた。本シリーズは旧石器時代から昭和時代の終わりまでを扱っており、各時代の専門家が原案を作成している。全55巻で構成されるが縄文時代篇だけでも3巻（第46～48巻）を占めるなど、従来全10～20巻程度であった他社のシリーズの数倍の巻数となっている。次いで1990年代になると、集英社から年表形式の『学習漫画 日本の歴史年表』（笠原（監修）、岩井他（画）1993）、三笠書房から『マンガ 日本の歴史がわかる本（全3巻）』（小和田（監修）、小杉（画）1995）が刊行されているが、その後も日本史学習漫画シリーズが相次いで刊行されており、1998（平成10）年には集英社から『学習漫画 日本の歴史（全22巻）』（岡村他（監修）、岩井（画）1998）が刊行されている。なお、1990年代になると人気漫画キャラクターが登場する新たな日本史学習漫画が登場する。小学館の『ドラえもん の学習シリーズ ドラえもんの社会科おもしろ攻略 日本の歴史がわかる（全2巻）』（藤子（監修）、いそほ（画）1994）がその嚆矢であるが<sup>(8)</sup>、このシリーズは日能研が指導しており単元ごとに練習問題が付属している。また、「ドラえもんシリーズ」では小学館から『小学館版学習まんが 少年少女人物日本の歴史 卑弥呼』（佐原（監修）、あおむら（画）1995）、『小学館版学習漫画 ドラえもんのびっくり日本の歴史 遺跡・大建築編（全3巻）』（大塚他（監修）、田中（画）1996）も刊行されている。

2000年以降では、2008（平成20）年に小学館の1981（昭和56）年版の増補版であ『小学館版学習まんが 少年少女日本の歴史（全23巻）』（佐原（監修）、あおむら（画）2008）、成美堂出版の『まんがで学習 日本の歴史（全5巻）』（小和田（監修）、岡本（画）2008）が刊行され、2010年代になると2010年に朝日学生新聞社の『学習まんが きのうのあしたは… 日本の歴史（全7巻）』（つばい2010）、旺文社の『スタディスタジアム（全3巻）』<sup>(9)</sup>（あさみ2010）、学研教育出版

(7) 講読対象は中学生から高校生で、学習参考書という位置づけであり、早稲田大学の滝口 宏による解説が掲載されている。

(8) 全3巻で構成され、日能研が指導しているが、浜学園監修による改訂版が2013～2017年に出版されている。

(9) 佐鳴予備校が監修した旺文社の『スタディスタジアム（全3巻）』（あさみ2010）は、予備校のホームページに連載していた歴史漫画を書籍化したものである。

の『学研まんが NEW日本の歴史 (全12巻)』(高野他 (監修)、姫川 (画) 2012) が刊行されている。さらに2015年以降では、2015年に小学館の『小学館版学習まんが はじめての日本の歴史 (全15巻)』(松木他 (監修)、大谷 (画) 2015)、KADOKAWAの『角川まんが学習シリーズ 日本の歴史 (全15巻)』(山本 (監修)、岩本 (画) 2015)、2016年には集英社の『集英社版学習まんが日本の歴史 (全20巻)』(設楽他 (監修)、あおき (画) 2016)、2018年には朝日新聞出版の『歴史漫画タイムワープシリーズ通史篇 (全14巻)』(河合 (監修)、もと・市川他 (画) 2018)、三笠書房の『たのしく学べる新編まんが 日本史 (全3巻)』(佐藤 (画) 2018) が出版されている。さらに、人気漫画キャラクターが登場する日本史学習漫画では、集英社から『満点ゲットシリーズ こちら葛飾区亀有公園前派出所 両さんの日本史大達人 (全3巻)』(吉村 (監修)、池田 (画) 2001・2002)、小学館から『学習まんがシリーズ 名探偵コナン推理ファイル 日本史の謎 (全4巻)』(東野 (監修)、阿部・丸 (画) 2004~2009)、双葉社から『クレヨンしんちゃんのなんでも百科シリーズ クレヨンしんちゃんの日本の歴史 おもしろブック (全2巻)』(吉村 (監修)、西沢 (画) 2006)、小学館から『名探偵コナン歴史まんが 日本史探偵コナン (全12巻)』(青山 (原作)、山岸・斉藤他 (画) 2017) が刊行されている。このように、2000年以降になるとさらに多くの日本史学習漫画が出版社から刊行されるようになった。

これら約50年の歴史をもつ日本史学習漫画の概要は次のようにまとめられる。

#### A 体裁

A5判とB6判、ハードカバーとソフトカバーがあり、頁数は120~270頁とかなり幅がある。このうち、初期のものはA5判ハードカバーが一般的であるが、学習漫画は家庭や図書館で子どもが繰り返し読むため、頑丈なハードカバーが選択されることが多かった。なお、2012(平成24)年以降になると一部あるいは全体がカラーとなっているシリーズが増えてくる。

#### B 出版社

集英社・小学館・学研の3社を中心に、中央公論社や学校図書など他の多くの出版社が参入している。

#### C 監修

ほとんどのシリーズに監修者がおり、和歌森太郎や児玉幸多などの著名な歴史学者が監修していることが多いが、1990年代末になると総監修者を置いて旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代の巻を考古学者が監修するなど、巻によって異なる監修者が担当するようになる。

#### D シナリオ (脚本)

一人のシナリオライターがすべての巻を担当する場合と巻ごとにライターが異なる場合がある。また、最近では複数のライターや事務所あるいは集団でシナリオを担当することもある。なお、中央公論社の『マンガ 日本の歴史』シリーズ(石ノ森1989~1993)は全55巻の大作であるが、各巻ごとに原案と脚本(シナリオ)の担当者が示されている。

#### E 作画

学習漫画を中心に活動している漫画家の作品と石ノ森章太郎のような有名漫画家の作品があるが、単独の漫画家がすべての巻の作画を担当する場合と巻ごとに作画者が異なる場合があ



る。また、作画者とは別に複数のイラスト担当者があることも多い。

#### F 登場人物

その時代の人物が多く登場するが、現代人が過去にタイムスリップする作品と現代人はまったく登場しない作品、さらに解説役の博士や学者が登場する作品と登場しない作品がある。また、「ドラえもん」や「名探偵コナン」などの人気漫画キャラクターを解説役として登場させている作品もある。

#### G ストーリー

情報量が多い説明・解説中心の作品とストーリー性が重要視され情報量が少ない作品がある。初期の作品は説明・解説中心であるが1980年代になるとストーリーが重視されるものが登場し、2010年代後半になるとストーリー中心のものが主体となる。

#### H その他

日能研・浜学園・佐鳴予備校など塾や予備校が監修・指導しているシリーズは、テスト対策が意識された構成になっており、各章や単元ごとに練習問題や確認テストが組み込まれている。

## 2.2 日本史学習漫画の体裁と内容

日本史学習漫画は、集英社、小学館、学研、大月書店、学校図書、中央公論社、三笠書房、成美堂出版、朝日学生出版社、旺文社、角川などの出版社から刊行されているが、ここでは1967（昭和42）年以降に刊行された日本史学習漫画28シリーズ（人気漫画キャラクターが登場するシリーズも含む）の基本的な体裁について、データを示しながら説明してみたい。

まず、版の大きさについてはA5判とB6判があるが、A5判が64.3%と全体の約2/3を占めている（人気漫画キャラクターが登場するシリーズはB6判が62.5%である）。ただし、刊行年を2000年以前と2000年以降で区分すると、2000年以前ではA5判が75.0%と全体の3/4を占めていたのに対し、2000年以降になるとA5判が56.3%となり両者は拮抗するようになる。また、当初は子どもが繰り返し読むためハードカバーが基本であったが、2000年以降になるとソフトカバーのシリーズが増えている。次に、1巻あたりのページ数であるが、これについては各シリーズの第1巻のページ数を検討したところ、140～159頁が全体の37.5%と150頁前後のものが最も多いが、200頁を超えるものも全体の35.7%を占めることがわかった（人気漫画キャラクターが登場するシリーズは200頁程度のものが62.5%である）。さらにシリーズを構成する巻数（別巻も含む）については、構成される巻数が全5巻未満のシリーズが全体の37.5%、全15～20巻のシリーズが全体の28.6%と2つのピークがみられることがわかった。このうち、全5巻未満のシリーズは人気漫画キャラクターが登場するものがその多くを占めており、通常のシリーズは全15～20巻で構成されるものが中心となっている。このように、人気漫画キャラクターが登場しない一般的な日本史学習漫画シリーズは、A5判ハードカバーで各巻150頁前後あるいは200頁以上の分量、全体で15～20巻程度で構成されていることがわかる。

次に、わが国で刊行された全10～25巻で構成される日本史学習漫画シリーズのうち先史時代（旧石器時代～弥生時代）を扱っている14作品について取り上げ、その内容や特徴について紹介してみたい<sup>(10)</sup>。

## ①『学習漫画日本の歴史 1国づくりの英雄 原始・大和時代』(図1)

- 作者 和歌森太郎 (監修)、カゴ直利 (画)  
 出版社 集英社 (全18巻)  
 発行年 1967年  
 体裁 A5判145頁 (ハードカバー)  
 構成 口絵写真 (埴輪 (男女)、大阪府仁徳天皇陵、静岡県登呂遺跡 (住居・高床倉庫)、銅剣、福岡県竹原古墳の壁画、群馬県武井遺跡の旧石器)、表紙、目次、第1～8話、奥付 (カバー裏)  
 内容 「第1話 君と君との争い」では長老の話の中に縄文時代の生活や村と村の争い、土偶などが登場する。巫女による占いの様子、青銅製や鉄製の武器や銅鐸も登場する。「第2話 卑弥呼女王」の舞台は邪馬台国で卑弥呼やトヨが登場する。狗奴国との争いから魏の皇帝へ使者を送る話を中心に卑弥呼の死後、国が乱れトヨが女王となる。その後の内容は「第3話 神武東征のつたえ」、「第4話 たたかう日本武尊」、「第5話 神功皇后」、「第6話 仁徳天皇」、「第7話 大王の身うちの争い」、「第8話 大伴金村」となっている。



図1 『学習漫画日本の歴史 1国づくりの英雄』 (和歌森監修1967)

特徴 わが国最初の日本史学習漫画シリーズである。第1話の主人公は少年イワヒコ、第2話の主人公は九州の役人のワカヒコである。タイトルは「国づくりの英雄 原始・大和時代」であり、弥生時代から古墳時代の話を中心であるが、神武東征や日本武尊・神功皇后の逸話にみられるように、古事記や日本書紀が歴史書として紹介され、日本神話が積極的に取り入れられていることが特徴である。第1話 (弥生時代) で縄文時代の生活が回想され当時の道具や土偶について説明されているが、実際の遺跡については口絵写真で紹介されているのみである。

## ②『小学館版学習まんが 少年少女日本の歴史 1日本の誕生 旧石器・縄文・弥生時代』小学館 (図2)

- 作者 児玉幸多 (監修)、西原和海 (シナリオ)、あおむら純 (画)  
 出版社 小学館 (全22巻)  
 発行年 1981年  
 体裁 A5判151頁 (ハードカバー)  
 構成 口絵写真 (土偶のいろいろ)、表紙、この巻の年表、はじめに、目次とおもな登場人物、第1～4章、資料編 歴史博士のものしり教室 (図解のみよう 登呂遺跡をたずねて、生活をしろ 縄文人・弥生人のくらしぶり、文化をしろ 道具のうつりかわり、くわしくしろ この巻のなんでも相談室、地図でしらべよう 旧石器・縄

(10) ここでは学習漫画に記述されている用語や表現、遺跡名はできるだけそのまま表記している。

文・弥生時代の遺跡、この巻の史跡・資料館・博物館)、おうちの方へ、奥付

内容 「第1章 ナウマンゾウのかりうど」(旧石器時代)

では長野県野尻湖遺跡群における発掘調査の方法や地層の堆積、日本列島の歴史などが解説されている。そして、旧石器人の生活や湖でのナウマンゾウ狩りの様子が描かれている。「第2章 山と海のめぐみ」(縄文時代)では千葉県加曾利貝塚を参考に縄文時代の生活や狩りの様子、丸木舟の製作や貝の採集、干し貝作り、土器作り、丸木舟を使用した海釣りや潜水漁、ドングリやクリの採集、物々交換による交易、陥し穴猟の様子、さらにはフグにあたって亡くなった家族の住居に火をかける様子も描かれている。長野県曾利遺跡出土のパン状炭化物も紹介されている。最後に当時の生活について「縄文時代の人びとのくらしは、しだい

に良くなりましたが、けっして安心できるものではありませんでした。病気や事故による死も多く、平均寿命は三十歳くらいだったと考えられています。それでも、人びとは、犬を友とし、共同生活をしたすけ合って生きてきたのです。くるしい中にも工夫をかさね、新しい弥生文化をうけ入れるもとを作っていました」(71頁)とまとめられている。「第3章 コメづくりのムラ」(弥生時代)では静岡県登呂遺跡を参考に弥生時代の生活や狩りの様子が描かれ、コメ作りや秋祭り、機織りや土器作りの様子、さらには銅鐸や鉄鎌が西からもたされたことなどが描かれている。また、巫女が登場して豊作の祈禱や雨乞いを行っている。「第4章 邪馬台国の女王」では、当時の国際情勢を背景として魏の使者が語る卑弥呼と邪馬台国の様子が描かれている。

特徴 主人公は、小学生の男の子と女の子、そして考古学者である。解説役の考古学者は禿げ頭で白い口髭の老人である。主人公たちは過去にタイムスリップせず、考古学者が当時の生活について詳細に説明している。比較的情報量の多い説明・解説型の学習漫画である。



図2 『小学館版学習まんが 少年少女日本の歴史 1 日本の誕生』(児玉監修1981)

③『集英社版学習漫画 日本の歴史 1日本のあけぼの 原始時代』(図3)

作者 笠原一男(責任編集・考証)、笠原一男・毛利和夫・小栗純子(立案・構成)、柳川創造(シナリオ)、久松文雄(画)

出版社 集英社(全18巻)

発行年 1982年

体裁 A5判141頁(ハードカバー)

構成 編者のことば(カバー裏)、表紙、刊行のことば、もくじ、プロローグ、1～6章、お母さまがたへ〈解説〉、年表、奥付(カバー裏)

内容 「プロローグ 夢をおう少年」は岩宿遺跡の発見物語であり、明石原人をはじめ葛

生人、牛川人、三ヶ日人、浜北人と古人骨が相次いで発見されたことも紹介されている。「1 おおむかしの日本」では、石器づくりや獲物の解体、食事の様子など旧石器時代の暮らしやオオツノシカやナウマンゾウの狩猟の様子が描かれており、最後に石器の使い方や野尻湖遺跡群の発掘調査の概要が説明されている。「2 縄文時代の暮らし」では、神奈川県南堀貝塚などの事例が示され、縄文時代の村や住居、狩猟・漁撈・木の実の採集の様子が描かれている。また、縄文土器の変化や土偶の用途、埋葬法（屈葬）や黒曜石の産地について説明されている。山の村の若者と海辺の村の女性が登場し、縄張りをめぐるいくさ（戦争）の様子も描かれている。「3 イネをつくる人たち」では、大陸からの移住者からイネづくりや農耕具が伝えられたことや石包丁による収穫の方法、高床倉庫での稲の保管、秋祭りの様子などが描かれている。また、大陸からイネが伝わったルート、日本列島のイネの北進、銅鐸・銅剣・銅矛の分布なども示されている。「4 海さち彦・山さち彦―昔ばなし―」では、「海さち彦」・「山さち彦」の神話が紹介されている。「5 金印のなぞ」では、奴国による後漢の光武帝への朝貢と金印授受の様子が描かれ、江戸時代に福岡県志賀島から金印が出土した逸話や奴国の墓といわれる須玖岡本遺跡の共同墓地が紹介されている。「6 なぞの女王ヒミコ」では、女王卑弥呼によるクニの支配の様子、邪馬台国と狗奴国の戦い、イヨの女王継承について説明されている。

**特 徴** 旧石器時代では男の子（チャゲ）、縄文時代では山の村の若者（マヒト）と海辺の村の女性（ミト）が登場するが、本作では現代人は登場しない。ストーリー性がやや強く、プロローグで岩宿遺跡の発見、5章で志賀島での江戸時代の金印発見などのエピソード（逸話）が紹介されていることが特徴である。

#### ④『学研まんが日本の歴史 1日本のあけぼの 原始時代』（図4）

作 者 樋口清之（監修）、伊東章夫（画）

出版社 学研（全16巻）

発行年 1982年

体 裁 A5判148頁（ハードカバー）

構 成 年表（表見返し）、監修のことは、この時代のあらまし、カラー絵巻（登呂の種まき、登呂の村づくり）、表紙、もくじ、1～7章、おもしろ資料室（おもしろ図解、日本史おもしろ新聞、重要項目・人物さくいん）、おうちのかたへ、奥付、このシリーズの特色、食事の移りかわり（裏見返し）

内 容 「1 縄文時代の発見」では、エドワード・モースが大森貝塚を発見して発掘調査を行った物語が中心であるが、相沢忠洋による岩宿遺跡の発見（コラム）や平安時代

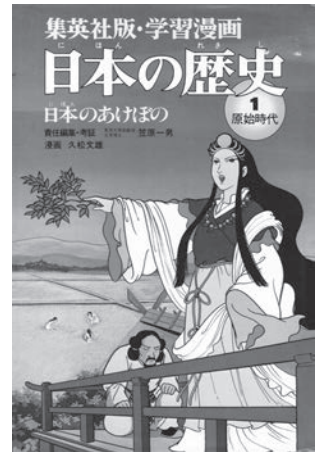


図3 『集英社版学習漫画 日本の歴史1 日本のあけぼの』（笠原責任編集1982）



に石器が天から降ってきたと信じていたことも記述されている。「2 縄文時代の暮らし」では、少年が弓矢を使った狩猟や石器づくりを学ぶ様子、少女が木の実拾いやヤマイモ掘りを行う様子が描かれている。また、漁撈の方法や土器・釣針の製作方法、さらには死者の埋葬方法、土面の人物による祈祷や土偶破壊による祈祷の様子なども描かれている。「3 金属器といねが伝わる」では、九州に漂着してコメや鉄器を広めた人物が登場する。また、弥生土器が発見された経緯やイネの日本列島への渡来ルートも説明されている。「4 登呂の村見学」では、登呂遺跡の発見と住居や高床式倉庫など登呂の村の様子が描かれ、「5 弥生時代の暮らし」では米作りの様子や使用される道具、秋祭りや巫女による雨乞いの祈祷、銅鐸づくりや機織りなどの当時の暮らしの様子が描かれている。「6 村から国へ」では族長が指揮する村同士の戦争、貧富の差や国の発生、さらには後漢への朝貢と金印の授受が描かれている。また、銅鐸の用途や江戸時代の金印の発見についても説明されている。「7 邪馬台国と卑弥呼」では、邪馬台国の女王卑弥呼による統治と魏への朝貢、さらにはその後の台与の擁立について描かれている。また、邪馬台国の近畿説と九州説についても解説されている。

**特徴** 縄文時代では少年カチグリと少女ハナが登場し、弥生時代ではアラクマという渡来人が登場するが、現代人は登場しない。全体に説明・解説中心であるが、それに加えて遺跡発見のエピソード（逸話）が紹介されていることが特徴である。



図4 『学研まんが日本の歴史 1 日本のあけぼの』(樋口監修1982)

⑤ 『まんが日本の歴史 1大昔にせまる 原始』(図5)

**作者** 加藤文三・黒羽清隆・吉村徳蔵(編集委員)、向中野義雄(画)

**出版社** 大月書店(全12巻)

**発行年** 1987年

**体裁** A5判157頁(ハードカバー)

**構成** 編集委員のことば(カバー裏)、表紙、読者のみなさんへ、もくじ、この巻の年表、第1～4話(各話のあとにQ&A)、おうちの方へ・先生へ、編集委員、奥付、漫画家紹介(カバー裏)

**内容** 「第1話 明石の嵐の明日」では、直良信夫の明石原人発見のエピソード(逸話)が詳細に描かれている。また、戦後の相沢忠洋の岩宿遺跡発見や1981(昭和56)年の座散乱木遺跡での前期旧石器発見、さらに



図5 『まんが日本の歴史 1大昔にせまる』(加藤・黒羽・吉村編集1987)



は1985（昭和60）年の春成秀爾による西八木海岸での木片発掘についても説明されている。「第2話 縄文のタイムカプセル」では、先生と同級生の女の子と福井県三方町立郷土資料館で鳥浜貝塚の展示を見学した主人公の男の子が縄文時代にタイムスリップする。そこでは竪穴住居内での生活やムラの祭り、狩猟や漁撈の様子などが描かれている。また、丸木舟の製作方法、ドングリ貯蔵穴の構造、土偶の用途、人骨の「仮関節」などについても説明されている。「第3話 土井ヶ浜—砂丘の墓場—」では、中学生になったたけしが描いた弥生時代の漫画が掲載されており、弥生時代の農作業の様子や他の集団との戦争の様子が描かれている。「第4話 女王国への旅」では、邪馬台国の女王ヒミコの魏への朝貢と魏の使者張政の派遣、ヒミコの死による国内の混乱とイヨの擁立、また邪馬台国の暮らしや邪馬台国の位置をめぐる論争などが描かれている。

**特 徴** 第2話で先生と同級生の女の子と鳥浜貝塚の展示を見学した主人公の男の子（たけし）が縄文時代にタイムスリップし、中学生になったたけしが弥生時代の漫画を描くという興味深いストーリーである。全体にストーリー中心の作品であり、明石原人発見のような遺跡発見のエピソード(逸話)が積極的に紹介されていることが特徴である。

#### ⑥ 『集英社版学習漫画 日本の歴史 1日本のはじまり 旧石器時代・縄文時代』(図6)

**作 者** 岡村道雄(監修)、小林隆(シナリオ)、岩井 溪(画)

**出版社** 集英社(全22巻)

**発行年** 1998年

**体 裁** A5判165頁(ハードカバー)

**構 成** 旧石器時代の遺跡(表見返し)、巻頭カラー(縄文のムラ、石器を使う、縄文1500年の村、すばらしい縄文土器、5000年前の世界)、表紙、もくじ、はじめに、第1～6章、日本史おもしろ資料館、監修のことば、年表、奥付、縄文時代の遺跡(裏見返し)

**内 容** 「第1章 人類の誕生と進化」では、最初に博物館の人類進化の展示を見る少年たちが登場し、その後、猿人・原人・旧人・新人の生活、そして氷河期の日本列島に大陸から人類が移動し、ナウマンゾウ狩りを行っている場面や当時の集落の様子が描かれている。「第2章 日本にも旧石器時代があった」では、最初に相沢忠洋による群馬県岩宿遺跡の発見と明治大学による発掘調査について紹介され、その後当時の気候や生息動物、旧石器の種類と使用法が説明され、直良信夫による兵庫県明石原人や沖縄県港川人の発見について紹介されている。さらに、旧石器人の暮らしとしてオオツノシカ猟と獲物の解体、クルミやクリの採集、石蒸し料理の方法、サケ漁やサケの皮の道具利用など



図6 『集英社版学習漫画 日本の歴史 1 日本のはじまり』(岡村監修 1998)

も描かれている。「第3章 縄文時代のはじまり」では、縄文土器の出現とその意義、定住や海面上昇の結果として現在の日本列島が形成されたことが説明され、弓矢猟や陥し穴猟、クリ林の手入れなど身分や貧富の差のない縄文人の暮らしが描かれている。最後に青森県三内丸山遺跡と思われる大規模なムラが紹介されている。「第4章 縄文時代の暮らし」では、海辺のムラの家族の1年が描かれている。春には干し貝作りやイワシ漁、山菜の採集、夏には銚や釣り針を使った漁撈や塩づくり、秋には囲い込み漁や木の実の採集、冬にはシカ猟やウミウ猟の様子が描かれている。「第5章 神を祭る人びと」では手形・足形の土製品、ムラの秋祭りと抜歯の儀式、さらには竪穴住居の作り方、結婚の儀式、埋葬の様子が描かれている。「第6章 縄文から弥生時代へ」では、黒曜石やオオツノハタなどの縄文時代の交易、亀ヶ岡式土器や漆の工芸品を作るムラが登場する。そして、西の住人からコメ作りを学び、弥生時代へ移行する状況が描かれている。

**特徴** 第1章のみ現代の少年・少女が登場する。ページ数が多いこともあり、旧石器時代や縄文時代の生業や生活、道具の作り方やその使用法など様々な事項が漫画で表現されている。後述するように、1998（平成10）年の初刷では日本最古の石器として約60万年前とされた宮城県上高森遺跡の石器や12万年前とされた宮城県馬場壇A遺跡の石器が紹介されており、後の版で変更が加えられた箇所が多くある。なお、2007（平成19）年に本巻は新編集され文庫化されている（岡村監修、岩井（画）2007）。全体にストーリー中心であるが文章による解説ではなく漫画による説明が多く、遺跡発見のエピソード（逸話）も盛り込まれている。

⑦『集英社版学習漫画 日本の歴史 2 イネと国づくり 弥生時代・古墳時代』（図7）

作者 岡村道雄（監修）、小林隆（シナリオ）、岩井 溪（画）

出版社 集英社（全22巻）

発行年 1998年

体裁 A5判165頁（ハードカバー）

構成 弥生時代の遺跡（表見返し）、巻頭カラー（復元された高床倉庫、弥生土器がつくられる、武器と祭りの道具、古墳の形と構造、2000年前の世界）、表紙、もくじ、はじめに、第1～6章、日本史おもしろ資料館、監修のことは、年表、奥付、古墳時代の遺跡（裏見返し）

内容 「第1章 イネをつくる暮らし」では、戦乱を避けて中国大陸の人々が日本列島にやってきて水田耕作を始め、縄文時代以来の狩猟採集生活を送っている人々と交流して稲作が日本列島に広がった様子が描かれている。その後、弥生ムラの春夏秋冬と稲作を中心とする生業や当時の生活の様子が描かれている。また、日



図7 『集英社版学習漫画 日本の歴史 2 イネと国づくり』（岡村監修1998）

本列島へのイネの伝播ルート、最古の水田、東北の水田などについても解説されている。「第2章 ムラからクニへ」では、弥生のムラの首長の存在と水争いにおける役割や鉄製の武器や見張りやぐら・環濠でムラを守る様子が描かれている。また、当時の市場の様子をはじめ交易品やそれを専門にするムラの存在が説明され、ムラ同士の戦いやクニの成立・王の登場、さらに丘陵地へのムラの移動（弥生時代中期）や戦死した英雄（ヤマト）の埋葬の様子などが描かれている。「第3章 弥生人の祭りといのり」では、神や精霊を信じる弥生人、ムラとクニの秋祭りの様子、卜骨を使用した卜占や盟神探湯、結婚式や葬送の様子が描かれている。また、銅鐸に描かれた動物や墓の形態などについても解説されている。「第4章 邪馬台国の女王卑弥呼」では、紀元1世紀頃の奴国の後漢への朝貢と金印の授受、3世紀の女王卑弥呼の誕生と魏への朝貢、その後の狗奴国との戦い、卑弥呼の死と国内の混乱、そして壺与の女王擁立が描かれている。また、当時の中国の歴史書や邪馬台国の位置などについても解説されている。「第5章 大王と古墳」では、前方後円墳について解説され、大和政権による列島統一の過程、さらに古墳づくりの方法や前方後円墳の分布、古墳の形などについて説明されている。「第6章 倭の五人の大王」では、大和政権の大陸進出や倭の五王、さらに竈、鉄製農具、登り窯、須恵器など大陸からの新たな技術の導入について描かれている。また、好太王碑、古墳時代の鎧、埼玉県稲荷山古墳出土の鉄剣についても解説されている。

**特徴** 物語の主人公は登場せず現代人も登場しない。ページ数が多い点は第1巻と同様である。そのため全体に解説は少なく、弥生時代の生業や生活が詳細に漫画で表現されている。ストーリー中心であるが文章による解説ではなく、漫画によって説明されている部分が多いことが特徴である。

⑧『小学館版学習まんが 少年少女日本の歴史 1日本の誕生 旧石器（岩宿）・縄文（紋）・弥生時代』（図8）

**作者** 佐原真（監修・考証・執筆）、たかしよいち（シナリオ）、あおむら純（画）  
**出版社** 小学館（全23巻）  
**発行年** 2008年  
**体裁** A5判149頁（ハードカバー）  
**構成** カラー口絵（史跡クローズアップ：三内丸山遺跡）、人物クローズアップ：ヒミコ）、この巻の歴史年表、はじめに、表紙、もくじ・おもな登場人物、第1～4章、資料編 歴史博士のものしり教室（図解でみよう 吉野ケ里遺跡をたずねて、生活をしよう 縄文（紋）人、弥生人の生活カレンダー、くわしくしよう この巻のなんでも相談室、地図でしらべよう 旧石器（岩宿）、縄文（紋）、弥生時代の遺跡、たずねてみよう



図8 『小学館版学習まんが 日本の歴史 1 日本の誕生』（佐原監修2008）

この巻の史跡・資料館・博物館)、おうちの方へ、奥付

内 容 「第1章 マンモスの狩りうどー旧石器(岩宿)時代ー」では戦後に北海道の襟裳岬から発掘されたマンモスのエピソード(逸話)が紹介され、当時の石器やウクライナのメジリチ遺跡のマンモスの骨を使用した住居などが紹介されている。その後、マンモス狩りや居住地の様子、男の子ムササビとマンモスの交流も描かれている。また、氷河期の気候や大陸と地続きとなった日本列島についても説明されている。「第2章 海と山のめぐみー縄文(紋)時代ー」では、丸木舟や糞石など福井県鳥浜貝塚の発掘調査の成果が説明され、主人公の男の子タロを中心に漁撈や土器作りなど当時の鳥浜ムラの生活の様子、広場にトーテンポール状の柱のある真脇ムラでの山のムラと海の村の交易やイルカ祭りの様子が描かれている。全体的に海のムラと山のムラでの自然環境の違いによる生業や暮らしの違いや彼らの交流が中心に描かれている。「第3章 戦いのムラー弥生時代中期ー」では、最初に物見やぐらなど吉野ケ里遺跡の写真や俯瞰図が示されている。その後ムラ長スネヒコが登場し、中国の使者との謁見の様子が描かれている。また、青銅器や絹織物の作り方、墳丘墓の築造法や甕棺の埋納法が説明されている。そして隣の国との戦争の様子や吉野ケ里で新しい王ウデヒコが擁立される様子が描かれている。さらに、コメ作りと秋祭り(収穫祭)の様子、貫頭衣の作り方なども説明されている。「第4章 女王ヒミコー弥生時代後期ー」では、最初に大阪府立弥生文化博物館の卑弥呼の館の模型が示され、その後ヤマタイ国にナシメと息子のサチヒコが登場する。当時の東アジアの国際情勢が説明され、ヒミコが魏の使者に謁見し、金印や鏡を受け取る場面が描かれている。そして、その後のクナ国との争いやヒミコの占いの様子やヒミコの死も描かれている。

特 徴 主人公は現代の小学生の男の子と女の子、禿げ頭で白い口髭の老人の考古学者が解説役である(タイムスリップはしない)。旧石器時代では男の子ムササビ、縄文時代では男の子タロが登場する。全体にストーリー性が高く、遺構や遺物の詳細な説明は少ない。また、佐原監修のため「旧石器(岩宿)時代」、「縄文(紋)時代」という表記をしている。第2章で祈祷する老婆の姿や酒の存否をめぐって監修者と漫画家・作家が争う姿や第4章で邪馬台国の位置について近畿説(作者)と北部九州説(漫画家)が登場する点はユニークである。

⑨『学研まんが NEW 日本の歴史第1巻 国の成り立ち～旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代～』(図9)

作 者 高野和弘(監修)、大石学(総監修)、榎本事務所(シナリオ)、姫川明(画)

出版社 学研教育出版(全12巻)

発行年 2012年

体 裁 A5判144頁(ハードカバー)、オールカラー

構 成 総監修者のことば(カバー裏)、食事のうつりかわり 1縄文～奈良時代(表見返し)、表紙、もくじ・おうちの方へ、1～4章、時代のまとめ(年表・解説・歴史スポットライト・歴史人物ストーリー)、奥付、食事のうつりかわり 2平安～明治時代



(表裏見返し)

内容 「1 日本のあけぼのと旧石器時代の人々」では、主人公の男子中学生が旧石器時代の授業時に岩宿遺跡の発掘現場にタイムスリップして発見者である相沢忠洋に会う場面から始まる。その後、旧石器の種類や機能、ナウマンゾウや地層の様子、野尻湖遺跡群での発掘調査の成果などが描かれ、主人公は現代に戻る。「2 よみがえる縄文時代」ではエドワード・モースの大森貝塚の発見と発掘の様子が描かれ、当時の土器による調理、土器作りや石器作り、トチの実の水さらし、弓矢と陥し穴による狩猟や竪穴住居内での生活などが説明されている。また、土偶の役割や子どもの死産と埋葬の様子も描かれている。「3 邪馬台国の誕生と女王卑弥呼」では、邪馬台国の卑弥呼が登場し、大陸からの稲作伝播ルートと東北地方へ広がる様子、他集落との争い、首長の登場、そしてクニをまとめた女王卑弥呼について説明されている。また、当時の東アジア情勢や魏から贈られた金印、さらには卑弥呼の死と台与の擁立について描かれている。「4 ヤマト王権と渡来人文化」では、5世紀に大陸から馬の利用、金属加工技術や土木技術、さらには文字がもたらされたこと、そして6世紀の仏教をめぐる蘇我氏と物部氏の争いが描かれている。



図9 『学研まんが NEW日本の歴史 1 国の成り立ち』(高野監修2012)

特徴 主人公は男子中学生の松山で現代から岩宿遺跡の発掘現場へタイムスリップする。旧石器時代では相沢忠洋、縄文時代ではエドワード・モースというわが国の考古学を代表する人物、それ以降は卑弥呼や物部尾輿・蘇我稲目など当時の歴史的人物が登場するなど人物を中心に描かれている点が特徴的である。全体にストーリー性が高く、遺跡発見のエピソード(逸話)も含んだ作品であるが1ページあたりのコマ数が少なく、吹き出しの数が多い点も特徴である。

⑩『小学館版学習まんが はじめての日本の歴史1 日本のはじまり(旧石器時代・縄文時代・弥生時代)』(図10)

作者 松木武彦(監修)、山本博文(総監修)、三条和都(シナリオ)、大谷じろう(画)

出版社 小学館(全15巻)

発行年 2015年

体裁 B6判155頁(ソフトカバー)、一部カラー

構成 表紙、スタッフ、はじめに、もくじ、おもな登場人物、第1~4章(なるほどコラム①ナウマンゾウの料理とは?、②イヅナの旅した場所は?、③縄文時代と弥生時代のちがひ、④ヒミコの占いと銅鏡のゆくえ)、まとめの教室(①歴史年表、②史跡地図 遺跡分布図・ヤマタイ国はどこにあった?、③なるほど図解 三内丸山遺跡)、まとめのことば~おうちの方へ~、奥付



内容 「第1章 旧石器時代」では、人類の進化と氷河期の日本列島や当時の動物とそれを追って日本列島にきた人類について説明され、移動生活をしていた当時の人々の生活が描かれている。また、沼地に追い込むナウマンゾウ狩りの方法も登場するが、偶然クマを仕留める話など常に少年ハヤタを中心に物語が展開している。「第2章 縄文時代」では、温暖化した日本列島や当時の動物、狩猟法の変化や漁撈や植物食の増加、土器の発明や定住の開始について説明されている。その後、陥し穴を掘る少年カジカと父親ウグイや陥し穴に落ちる少年イズナが登場する。イズナがムラに招かれムラの様子や当時の祭りの様子が描かれるが、ここでは土器作りや衣服（貫頭衣）作りの方法、縄文クッキーの作り方、当時の交易品について説明されている。「第3章 弥生時代」では、最初に弥生土器や米作り、金属器の製作、養蚕の技術が伝わったこと、ムラ同士の争いが起こり、各地にクニが作られたことが説明されている。そして、物語は上流のムラとの水争いを中心に展開するが、その中でイネの苗代作りや脱穀の方法、養蚕や弥生土器の製法について説明されている。さらに、北のムラとの争いが起きて環壕集落が形成される様子や各地にクニができたことも描かれている。「第4章 ヤマトイ国とヒミコ」では、最初に『漢書地理志』や『魏志倭人伝』の記述や女王ヒミコの人物像、ヤマトイ国の位置、ヒミコ死後の国の乱れとトヨの擁立について説明されている。その後クナ国とヤマトイ国の争いとヤマトイ国連合の成立、ナシメの魏への朝貢と金印の授受、クナ国討伐とヒミコの死、国の乱れとトヨの擁立という一連の流れが回想形式で描かれている。

特徴 本作では現代人は登場しない。第1章の少年ハヤタと妹サキ、その父親、第2章の少年カジカと父親ウグイ、自分のムラを探して旅をしている少年イズナ、第3章の少年コウヤと親友のイブキとその妹のミワ、コウヤの父親のタンバ、第4章の女王ヒミコ、その跡継ぎトヨ、ヤマトイ国の兵士ナシメ、クナ国の王ヒコミコが主な登場人物である。解説は各章の最初の部分のみであり、登場人物を中心としたストーリー性の高い作品であることが特徴であるが、ムラ同士の争いを中心に描いた第3章の占める割合が高いことも指摘できる。登場人物が多く、全体にストーリー中心に展開する作品である。



図10 『小学館版学習まんが はじめての日本の歴史1 日本のはじまり』（松木監修2015）

⑪『角川まんが学習シリーズ 日本の歴史1 日本のはじまり 旧石器～縄文・弥生～古墳時代』（図11）

作者 山本博文（監修）、上原 侑・おぎのひとし・砂崎 良・元井朋子（シナリオ）、岩本佳浩（画）

出版社 KADOKAWA (全15巻)

発行年 2015年

体裁 B6判223頁 (ソフトカバー)、一部カラー

構成 監修者のことば (カバー裏)、登場人物 (表見返し)、保護者の方へ、歴史写真館 ([旧石器時代]実物大復元マンモス、[縄文時代]三内丸山遺跡、[弥生時代]吉野ヶ里遺跡、[古墳時代]古墳と副葬品)、絵で見る歴史ナビ (1 日本のはじまり 旧石器～縄文・弥生・古墳時代)、もくじ・保護者の方へ、第1～4章、もーっと歴史が分かる! わくわく特別授業 (なるほど図解「古墳内部の構造」、ここに注目「人類のうつり変わり」、おしえて!先生 (Q&A)、年表、奥付、古代トラベルマップ (裏見返し))

内容 「第1章 日本列島の誕生と縄文の人びと」では、最初に3万数千年前の旧石器時代の気候や動物、次いで約2万年前のユーラシア大陸の一家の生活や旧石器の特徴が説明され、大型動物を追って一家が大陸から日本列島にたどり着いたことが描かれている。その後、約2千5百年前の縄文時代では環状列石や土偶による祭祀の様子、成長したハジメと家族の生活の様子が描かれ、竪穴住居、縄文土器、磨製石器、骨角器などの作り方が説明されている。そして、4年後にハジメは狩りに行くがイノシシにかまれた祖父が死亡し (屈葬で埋葬される)、それを契機にハジメが弓矢や釣り針・銛を改良し、ユミが木の実を育てるようになる。また、黒曜石・コハク・ヒスイなどの交易品の広がりやハジメとユミの成人式 (抜歯) の様子も描かれている。「第2章 弥生時代一戦いのはじまり」では、採集生活を送る北九州の村にシロなど大陸から逃れた人々が到着し、稲作が伝わったルートや農作業や農具の種類、石包丁の使用法、機織り技術や貫頭衣などが解説されている。そして、米をめぐる争いが起き、武器が調達され、ムラを守るための環濠集落が構築される様子や死者の埋葬法 (かめ棺墓や木棺墓)、弥生土器の作り方や青銅器の祭器への変化などが説明されている。そして丘の上に環濠集落が作られ、国が成立し、神殿が作られクロが貢物を受け取る王となるストーリーである。「第3章 邪馬台国の女王卑弥呼」では、初めに『漢書地理志』の記述が紹介され、1世紀半ばに奴国王が後漢の光武帝に使者を送り、金印などが授受されたことが描かれている。そして、2世紀後半になり各地で内乱が起きて卑弥呼が擁立される経緯が描かれ、『魏志倭人伝』の記述にある卑弥呼が難升米を魏の皇帝へ使わし金印や銅鏡が授受されたことが説明されている。次に、魏の使者が登場し、邪馬台国の位置 (畿内説と九州説) と候補地が示され『魏志倭人伝』の記述にある当時の倭人の暮らしぶりが描かれている。その後、狗奴国との戦争と卑弥呼の死と埋葬、その後の国の乱れと台与の擁立と晋への使者の派遣という一連の出来事が描かれている。「第4章 古墳作りと大和の大王」では、最初に3世紀後半に大和政権が成立し、4世紀になると新



図11 『角川まんが学習シリーズ 日本の歴史1 日本のはじまり』(山本監修2015)

羅に侵攻し、高句麗に敗退したことやその後東晋や宋に朝貢したことが描かれている。次に、古墳築造における渡来人の活躍が描かれ、副葬品や古墳の大きさや分布についての解説があり、渡来人によってもたらされた須恵器や登り窯、こしきや当時の食事、埴輪の種類や役割、古墳の石室の構造が説明されている。また、ヤマトタケル伝説や6世紀の朝鮮半島（伽耶）をめぐる情勢や九州の磐井の乱も詳細に描かれている。

**特 徴** 本作では現代人は登場しない。登場人物は第1章で少年ハジメ、その幼馴染の少女ユミ、ハジメの父親・母親・祖父、第2章では、少年クロと少女シロ、クロの父親・母親、第3章で奴国王と漢の光武帝、邪馬台国の女王卑弥呼と跡継ぎの台与、魏の皇帝曹叡、第4章で継体天皇、物部麁鹿火、磐井、新羅の法興王、古墳築造作業員の少年タビヒトである。各章の登場人物を中心としたストーリー性の高い作品である。また、判は小さいもののページ数が多いこと、1ページのコマ数が少ないので読み易い点も特徴である。

⑫ 『集英社版学習まんが日本の歴史1 日本のあげぼの 旧石器・縄文・弥生・古墳時代』(図12)

作 者 設楽博己(監修)、星井博文(シナリオ)、あおきてつお(画)

出版社 集英社(全20巻)

発行年 2016年

体 裁 A5判191頁(ハードカバー)、一部カラー

構 成 この巻の内容は?(カバー裏)、おとずれてみたい遺跡マップ(表見返し)、表紙、もくじ、早わかり図、巻頭特集(日本列島にマンモスがいた!、洗練デザイン!縄文文化、米が争いを呼ぶ!弥生時代)、この巻の重要ポイント、第1~5章(章末にコラム:岩宿の大発見!、おどろきのムラ三内丸山遺跡、稲作と金属器が生活を変えた!、文字に残された古代の日本、日本に最初の大王がうまれた)、日本の歴史わくわくミュージアム(縄文人VS弥生人、縄文人の豊かな生活、なぞにみちた古代の王国、古墳は権力のあかし)、知ると楽しい!歴史のミニ知識、監修のことは、年表、逆引きもできる!歴史用語、奥付、世界の古代文明と宗教のおこり(裏見返し)



図12 『集英社版学習まんが日本の歴史1 日本のあげぼの』(設楽監修2016)

**内 容** 「第1章 ナウマンゾウがごちそう」では、最初に地球の歴史の長さを1日24時間に置き換えて、人類の進化や日本の歴史のはじまり、氷河時代の日本列島や動物について説明している。その後、ナウマンゾウ狩りや当時の集落(洞窟と開地遺跡)の様子、黒曜石の石器づくりなどが描かれている。また、相沢忠洋による群馬県岩宿遺跡発見のエピソード(逸話)が紹介されている。「第2章 縄文人の平和なくらし」では、縄文時代の年代観と当時の自然環境、当時のムラや堅穴住居、縄文土器などにつ

いて解説されている。その後、当時の暮らしや埋葬法（屈葬）、ストーンサークルについての説明があり、他のムラから漂流してきた女の子ミズキを助けたダンが彼女のムラを訪れ、そこで植物（豆）を育て冬場に備えて貯蔵穴に木の実を蓄えることや離頭銛などの技術を自分のムラに持ち帰る。また、祭りでの抜歯の儀式、土偶や火炎土器も紹介されている。「第3章 稲作とクニのはじまり」では、大陸から九州北部に稲作が伝わり、定住して稲作中心の生活となったことや稲作の伝来ルートが示されている。また、金属器の使用や高床倉庫など渡来人の指導で水田が作られる様子が描かれている。その後、秋祭りが行われ銅鐸などの祭器が使用されているが、祭りの最中に下流のムラ人に襲撃される。保存のきく米が争いの元となり、紀元前2～1世紀には環壕集落や物見やぐらが作られ、その後クニが成立し、紀元1世紀になると指導者（王）が生まれたことが説明されている。そして、奴国が漢の皇帝（光武帝）に朝貢し、金印を授受されたことが描かれている。「第4章 邪馬台国と卑弥呼」では、2世紀後半の倭国大乱、そして卑弥呼が擁立される経緯や邪馬台国の様子が『魏志倭人伝』の記述とともに描かれ、狗奴国が従わなかったことや邪馬台国の位置がわかっていないことも説明されている。また、卑弥呼が魏に使者を送り金印や銅鏡が授受されたこと、卑弥呼が亡くなって国内が混乱し、壺与が女王となったことが描かれている。「第5章 広がるヤマト政権」では、最初に3世紀中頃から7世紀まで古墳（前方後円墳）が造られた古墳時代であることが説明され、大和地方における古墳づくりの様子が描かれ、埴輪の意味やその種類について説明されている。その後、4世紀以降のヤマト政権の勢力が全国に波及し、鏡の配布や古墳造営（前方後円墳）によって同盟を結んで権力を強化し、鉄を入手するため加耶を足がかりに朝鮮半島へ進出し、百済と手を結ぶものの高句麗・新羅連合軍に敗れたこと、その後倭の五王が宋へ使者を送ったことが描かれている。また、継体天皇の時に筑紫の磐井が反乱を起こし鎮圧され、その後氏姓制度が確立し、大陸から渡来人が養蚕・機織り・須恵器づくりなどの技術、文字や仏教・儒教を伝えたことも説明されている。

**特徴** 現代人は登場しない。第1章で少年ケン、第2章で他のムラから漂流してきた女の子ミズキとそれを助けたダン、第3章は青年ヨシヒコが主人公である。各章に主人公がおり、ストーリー性の高い作品であるが、1ページあたりのコマ数は少ない。作品には様々な場面が登場するが、基本的にそこで説明がなされているため吹き出しが目立つことも特徴である。

⑬『歴史漫画タイムワープシリーズ 縄文世界へタイムワープ』（図13）

作者 河合敦（監修）、チーム・ガリレオ（シナリオ）、もとじろう（画）

出版社 朝日新聞出版（全15巻：通史篇は14巻）

発行年 2017年

体裁 A5判175頁（ソフトカバー）、オールカラー

構成 マンガ家・ストーリー集団・監修者紹介（カバー裏）、はじめに、今回のタイムワープの舞台は…？、もくじ、登場人物、1～10章（各章末に歴史なるほどメモ：①縄



文時代ってどんな時代？、②縄文人の生活を見てみよう！、③縄文人のファッションは？、④縄文人の道具を見てみよう1、⑤縄文人の道具を見てみよう2、⑥縄文人の住まいは？、⑦貝塚って何？、⑧縄文時代の「交易」、⑨縄文時代の代表的な遺跡、⑩コメ作りの始まりと縄文時代の終わり)、縄文時代年表、奥付

内 容 「1章 怪しいやつ の正体は？」では、シュンたちと未来人ネルが懐中時計型のタイムマシンで縄文時代にタイムワープし、仮面をつけた縄文人に出会う。「2章 懐中時計がなくなった！」では、当時の祭りを体験し、ワシとトビの家で食事をする。また、当時のムラの規模や食料についての説明がある。「3章 ノブがやらかした！」では、ノブがムラの食料を食べてしまい狩りをするようになる。「4章 獲物を捕まえろ！」では、ワシとトビから弓矢など狩りの道具の作り方を学び、シカを仕留める。「5章 ユイとノブが大活躍」では、ノブが堅穴住居を作り、ユイが土器作りや布作りを学ぶ。「6章 川で危機一髪！」では、シュンとワシ・トビ・ネルが離頭銛や釣り針で魚をとる。「7章 縄文クッキングは工夫がいっぱい！」では、シュンたちがムラに戻り、獲物の解体や料理を行う（肉の燻製や木の実のクッキーも登場する）。「8章 懐中時計が見つかったけど…」では、黒曜石の交易をしていて父親とはぐれたケラが登場する（壊れた懐中時計が貝塚から見つかる）。「9章 山の中で大ピンチ！！」では、シュンたちはケラの父親に再会するが陥し穴に落ちたオオカミに襲われる。「10章 さよなら縄文世界」では、ユイの説得でオオカミは去り、ケラの父親から水晶をもらって懐中時計をなおして現代に帰るという内容である。

特 徴 登場人物は現代の少年シュン、少女ユイ、少年ノブ、未来人の少年ネル、縄文人の兄弟ワシとトビである。登場人物が解説役となっており、説明文による解説はない。小学校低学年も読者ターゲットにしているため、全体に説明が少なく情報は少ない。わかりやすいストーリー中心の作品である。



図13 『歴史漫画タイムワープシリーズ 縄文世界へタイムワープ』(河合監修2017)

⑭ 『歴史漫画タイムワープシリーズ 弥生時代へタイムワープ』(図14)

作 者 河合 敦 (監修)、チーム・ガリレオ (シナリオ)、市川智茂 (画)

出版社 朝日新聞出版 (全15巻：通史篇は14巻)

発行年 2018年

体 裁 A5判181頁 (ソフトカバー)、オールカラー

構 成 マンガ家・ストーリー集団・監修者紹介 (カバー裏)、はじめに、今回のタイムワープの舞台は…？、もくじ、登場人物、1～10章 (各章末に歴史なるほどメモ：①「日本人」が誕生した旧石器時代、②約1万年続いた縄文時代、③縄文時代から弥生



時代、④弥生人の生活（食料編）、⑤弥生人の住宅事情、⑥大陸からやってきた文明、⑦弥生時代のコメ作り、⑧弥生人の生活（ファッション編）、⑨弥生時代に戦争が起こった、⑩卑弥呼ってどんな人？、⑪卑弥呼のいた邪馬台国はどこにある？、⑫いってみよう！）、弥生時代の遺跡MAP、教えて！！河合先生弥生時代おまけ話（1弥生時代ヒトコマ博物館、2弥生時代ビックリ報告、3弥生時代ニンゲンファイル、4弥生時代ウンチクこぼれ話）、旧石器時代～弥生時代年表、奥付

内 容 「1章 弥生時代へGO!」では、サラが水田で勾玉を発見するが、その後スマホから突然ヒミコが登場し、サラとダイゴ、ニャン丸が弥生時代にタイムワープする。「2章 弥生人に出会ったぞお!」では、サラたちが狩りをし、木の実や山菜を食べる弥生人のユウに出会う。「3章 イノシシから逃げろ!」では、米作りを習いに行くユウとサラたちがイノシシに襲われる。「4章 これが弥生時代の田んぼだ!」では、イノシシから逃れたサラたちが水田のあるムラに到着し、高床倉庫を見学し、火おこしに挑戦する。その後道具の使い方を質問し、コメ作りを学ぼうとする。「5章 渡来人の悪だくみ」では、ムラの渡来人カオとニンと会い、渡来人が機織りや青銅器、農具やコメ作りを伝えたことを知る。そして勾玉を狙う渡来人のマジック・ショーにサラたちが出演する。「6章 ニャン丸が盗まれたあ!?!」では、ニャン丸がゴホウラの腕輪に変身し、行方不明になった。それをムラの長老に話したところ渡来人たちがヒミコのムラに向かうことを教えてくれる。「7章 渡来人を追いかけろ!!」では、ヒミコのムラに向かったサラとダイゴは途中で捕まってしまう。「8章 ニャン丸大ピンチ!」では、サラとダイゴは王の前で渡来人たちに会い、ニャン丸が占いに使われることを知る。「9章 奇跡の再会!」では、脱出したサラとダイゴはニャン丸と再会し、ほら穴でヒミコを発見し勾玉を渡す。「10章 弥生時代のお宝をゲット!」では、ヒミコが渡来人たちをやっつけてムラから脱出し、ヒミコからお宝としてコメ粒をもらいヒミコが消えるという内容である。

特 徴 登場人物は、現代の少年ダイゴ、その姉サラ、祖父で歴史学者のじい、飼猫のニャン丸、弥生人の少女ヒミコ、少年ユウ、渡来人の男性のカオとニンである。登場人物が解説役となっており、説明文による解説はない。小学校低学年も読者ターゲットにしているため、全体に説明が少なく情報は少ない。わかりやすいストーリー中心の作品である。



図14 『歴史漫画タイムワープシリーズ 通史編 1 弥生時代へタイムワープ』（河合監修 2018）

### 3. 日本史学習漫画と先史時代

#### 3.1 取り上げられた遺跡

わが国最初の日本史学習漫画シリーズである1967（昭和42）年刊行の集英社の『学習漫画日本の歴史 1国づくりの英雄 原始・大和時代』（和歌森（監修）・カゴ（画）1967）においては、本文に遺跡や発掘調査の成果は紹介されていないものの、「口絵写真」に大阪府仁徳天皇陵、静岡県登呂遺跡（住居・高床倉庫）、福岡県竹原古墳の壁画、群馬県武井遺跡の旧石器が掲載されている。その後1980年代になると本文中に遺跡が登場するようになる。小学館の『少年少女日本の歴史 1日本の誕生』（児玉（監修）・あおむら（画）1981）では旧石器時代の長野県野尻湖遺跡群、縄文時代の千葉県加曾利貝塚や長野県曾利遺跡、弥生時代の登呂遺跡、集英社の『集英社版学習漫画日本の歴史 1日本のあけぼの』（笠原（編集）・久松（画）1982）では旧石器時代の群馬県岩宿遺跡（エピソード）、縄文時代の神奈川県南堀貝塚、弥生時代の福岡県志賀島出土金印（エピソード）および須玖岡本遺跡、学研の『学研まんが日本の歴史 1日本のあけぼの 原始時代』（樋口（監修）・伊東（画）1982）では旧石器時代の岩宿遺跡（エピソードとコラム）、縄文時代の東京都大森貝塚（エピソード）、弥生時代の登呂遺跡（カラー絵巻）、大月書店の『まんが日本の歴史 1大昔にせまる 原始』（加藤・黒羽・吉村（編）・向中野（画）1987）では旧石器時代の兵庫県明石原人（エピソード）、岩宿遺跡（エピソード）、宮城県座散乱木遺跡の前期旧石器（エピソード）、兵庫県西八木海岸の木片（エピソード）、縄文時代の福井県鳥浜貝塚、弥生時代の山口県土井ヶ浜遺跡である。学校図書『新まんが日本史（上）縄文時代～平安時代』（鳥海（監修）・巴（画）1988）では、仁徳天皇陵（章扉）、奈良県箸墓古墳（コラム）、石舞台古墳（コラム）、飛鳥板蓋宮（コラム）の他に「表見返し」に主な遺跡の分布図が掲載されている。

これに対し、1989～1993年に全55巻が刊行された中央公論社の『マンガ 日本の歴史』（石ノ森（画）1989～1993）では、「1 秦・漢帝国と稲作を始める倭人」（石ノ森（画）1989）で福岡県板付遺跡、登呂遺跡、「2 邪馬台国と卑弥呼のまつりごと」（石ノ森（画）1989）で島根県荒神谷遺跡、佐賀県吉野ヶ里遺跡、「3 興亡する倭の五王と大嘗の祭」（石ノ森（画）1990）で箸墓古墳、岡山県楯築遺跡、大山古墳（仁徳天皇陵）、「4 王統譜を編み上げる大和王権」（石ノ森（画）1990）で福岡県岩戸山古墳、「45 旧石器人の登場」（石ノ森（画）1993）で大森貝塚、宮城県高森遺跡、大阪府はさみ山遺跡、岩宿遺跡、野尻湖遺跡群、「46 縄文時代の始まり」（石ノ森（画）1993）で岩宿遺跡、長崎県福井洞穴、東京都前田耕地遺跡、中里遺跡、神奈川県夏島遺跡、「47 縄文社会の繁栄」（石ノ森（画）1993）で秋田県杉沢台遺跡、加曾利貝塚、「48 縄文時代の終末」（石ノ森（画）1993）で岡山県津雲遺跡、福岡県菜畑遺跡・板付遺跡が本文中で紹介されている。全体では登場する遺跡数は多いが1巻あたりの遺跡数は1～5遺跡程度である。

1990年代末以降では、集英社の『集英社版学習漫画 日本の歴史』（岡村（監修）・岩井（画）1998）の「1日本のはじまり 旧石器時代・縄文時代」で旧石器時代の岩宿遺跡（エピソード）、明石原人（エピソード）、沖縄県港川人、「巻頭カラー」で長野県与助尾根遺跡、「表見返し」で旧石器時代の遺跡（分布図）、「裏見返し」で縄文時代の遺跡（分布図）、「2 イネと国づくり 弥生時代・古墳時代Ⅰ」（岡村（監修）・岩井（画）1998）で大阪府古市古墳群（コラム）、朝鮮半

島の好太王碑（コラム）、「巻頭カラー」で大仙陵古墳（伝仁徳天皇陵）、「表見返し」で弥生時代の遺跡（分布図）、「裏見返し」で古墳時代の遺跡（分布図）が紹介されている。さらに小学館の『学習まんが 少年少女日本の歴史 1日本の誕生（1981年の増補版）』（佐原（監修）・あおむら（画）2008）で北海道襟裳岬から発掘された旧石器時代のマンモスやウクライナのメジリチ遺跡、縄文時代の鳥浜貝塚や真脇遺跡、弥生時代の吉野ケ里遺跡、「史跡クローズアップ」で青森県三内丸山遺跡、「資料編」で吉野ケ里遺跡、成美堂出版の『まんがで学習 日本の歴史 1 ニッポンのはじまり 旧石器時代～飛鳥時代』（小和田（監修）・岡本（画）2008）で旧石器時代の岩宿遺跡や浜北人・港川人、「カラー口絵」で箸墓古墳・唐古鍵遺跡、「クローズアップ遺跡図鑑」で縄文時代の鹿児島県上野原遺跡、東京都中里遺跡、三内丸山遺跡、秋田県大湯環状列石、弥生時代の吉野ケ里遺跡、唐古鍵遺跡、登呂遺跡が紹介されている。

2010年以降では、朝日学生新聞社の『学習まんが きのうのあしたは… 日本の歴史第1巻 日本の始まり 旧石器時代～奈良時代』（つばい（画）2010）で本文中に遺跡は紹介されていないが「巻頭カラー」で三内丸山遺跡および大仙古墳が紹介され、「裏見返し」にこの巻に登場するおもな遺跡の位置と簡単な説明が掲載されており、旺文社の『スタディスタジアム 弥生時代～鎌倉時代（初）』（佐鳴予備校（監修）・あさみ（画）2010）でも本文中には遺跡は紹介されていないが、欄外の説明で板付遺跡と菜畑遺跡、「もっとくわしく」で大仙陵古墳（仁徳天皇陵）が紹介されている。また、学研教育出版の『学研まんが NEW 日本の歴史 1国の成り立ち～旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代～』（高野（監修）・姫川（画）2012）では、旧石器時代の岩宿遺跡（エピソード）、縄文時代の大森貝塚（エピソード）、「時代のまとめ」で東京都多摩ニュータウンNo72遺跡、三内丸山遺跡、加曾利北貝塚、吉野ケ里遺跡、箸墓古墳、大仙陵古墳、群馬県三ツ池遺跡・黒井峯遺跡、大阪府島泉丸山古墳、奈良県高松塚古墳、福岡県王塚古墳が紹介されている。

さらに2015年以降では、小学館の『学習まんが はじめての日本の歴史1 日本の始まり（旧石器時代・縄文時代・弥生時代）』（松木（監修）・大谷（画）2015）で本文中に遺跡は紹介されていないが、「なるほど図解」で三内丸山遺跡が紹介されており、同様にKADOKAWAの『角川まんが学習シリーズ 日本の歴史 1日本のはじまり（旧石器時代～縄文・弥生～古墳時代）』（山本（監修）・岩本（画）2015）でも本文中では遺跡は紹介されていないが、「歴史写真館」で三内丸山遺跡、吉野ケ里遺跡、長野県森將軍塚古墳など、「絵でみる歴史ナビ」で大仙古墳が紹介されている。また、集英社の『学習まんが日本の歴史 1日本のあけぼの 旧石器・縄文・弥生・古墳時代』（設楽（監修）・あおき（画）2016）では旧石器時代の岩宿遺跡（エピソード）、縄文時代の三内丸山遺跡（コラム）、古墳時代の大仙陵古墳が登場し、朝日新聞出版の『歴史漫画タイムワープシリーズ 縄文世界へタイムワープ』（河合（監修）・もと（画）2017）では、本文中で遺跡は紹介されていないが「歴史なるほどメモ」で三内丸山遺跡や加曾利貝塚が紹介され、「縄文時代の代表的な遺跡」も掲載されている。同様に『歴史漫画タイムワープシリーズ 通史編1 弥生時代へタイムワープ』（河合（監修）・市川（画）2018）においても本文中で遺跡は紹介されていないが、「もの知りコラム」で三内丸山遺跡、「歴史なるほどメモ」で板付遺跡、唐古鍵遺跡、吉野ケ里遺跡が紹介され、「弥生時代の遺跡MAP」も掲載されている。最後に、学校図書の『たのしく学べる新編まんが日本史（上）縄文・弥生時代～鎌倉幕府の成立』（佐藤

(画) 2018)でも本文中で遺跡は紹介されていないが、表紙に大仙陵古墳の写真、「歴史資料室」で野尻湖湖底遺跡、岩宿遺跡、三内丸山遺跡、加曾利貝塚、吉野ケ里遺跡、登呂遺跡、さらに平城京や平安京が紹介されている。

このように、日本史学習漫画では、以前から知られていた遺跡に加えて出版された頃に新聞報道や考古学界で話題になった各時代の遺跡が紹介されていることが確認できる。例えば、1980年代までは旧石器時代の岩宿遺跡、野尻湖遺跡群、明石原人、縄文時代の大森貝塚、加曾利貝塚、曾利遺跡、鳥浜貝塚、弥生時代の登呂遺跡、土井ヶ浜遺跡、古墳時代の大山古墳（大仙陵古墳・仁徳天皇陵）、箸墓古墳、石舞台古墳などが登場しているが、1990年代以降になると、旧石器時代の港川人、はさみ山遺跡、縄文時代の福井洞穴、前田耕地遺跡、真脇遺跡、中里遺跡、杉沢台遺跡、三内丸山遺跡、上野原遺跡、弥生時代の吉野ケ里遺跡、荒神谷遺跡、唐古鍵遺跡、古墳時代の森将軍塚古墳、三ツ池遺跡、黒井峯遺跡などが登場する（「旧石器捏造遺跡」については後述する）。

また、日本史学習漫画で遺跡が紹介される際には、①本文中で紹介される場合、②コラムや解説などで紹介される場合、③口絵や巻頭カラーで紹介される場合がある。このうち本文中に遺跡が登場するようになるのは1980年代以降であるが、1980年代初頭の3シリーズ（小学館の『少年少女日本の歴史 1日本の誕生』、集英社の『集英社版学習漫画日本の歴史 1日本のあけぼの』、学研の『学研まんが日本の歴史 1日本のあけぼの 原始時代』）では旧石器時代の岩宿遺跡、野尻湖遺跡群、縄文時代の大森貝塚、加曾利貝塚、曾利遺跡、南堀貝塚、弥生時代の登呂遺跡、須玖岡本遺跡、志賀島出土金印が本文中に登場する。その後、大月書店の『まんが日本の歴史 1大昔にせまる 原始』（加藤・黒羽・吉村（編）・向中野（画）1987）では旧石器時代の岩宿遺跡、明石原人、西八木海岸の木片、座散乱木遺跡、縄文時代の鳥浜貝塚、弥生時代の土井ヶ浜遺跡が紹介されているが、学校図書『新まんが日本史（上）縄文時代～平安時代』（鳥海（監修）・巴（画）1988）では遺跡は本文中に登場しない。これに対し、中央公論社の『マンガ 日本の歴史』（石ノ森章太郎（画）1989～1993）では、すべての遺跡が本文中で紹介されている。

そして、1990年代末以降になると本文中で遺跡が紹介される作品は減少する傾向がみられる。考古学者が監修した集英社の『集英社版学習漫画 日本の歴史 1日本のはじまり 旧石器時代・縄文時代』（岡村（監修）1998）で旧石器時代の岩宿遺跡、兵庫県明石原人、沖縄県港川人、小学館の『学習まんが 少年少女日本の歴史 1日本の誕生』（佐原（監修）2008）で旧石器時代のウクライナのメジリチ遺跡、縄文時代の鳥浜貝塚や真脇遺跡、弥生時代の吉野ケ里遺跡が登場するが、その後の成美堂出版『まんがで学習 日本の歴史 1 ニッポンのはじまり 旧石器時代～飛鳥時代』（小和田（監修）・岡本（画）2008）では旧石器時代の岩宿遺跡や浜北人・港川人、学研教育出版の『学研まんが NEW 日本の歴史 1国の成り立ち～旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代～』（高野（監修）・姫川（画）2012）では旧石器時代の岩宿遺跡、縄文時代の大森貝塚、集英社の『集英社版学習まんが日本の歴史 1日本のあけぼの 旧石器・縄文・弥生・古墳時代』（設楽（監修）・あおき（画）2016）では、旧石器時代の岩宿遺跡、古墳時代の大仙陵古墳が本文中で紹介されているのみである。この背景として日本史学習漫画が従来の説明・解説中心からストーリー重視へと変化したことが指摘できる。

また、本文中に先史時代の遺跡が登場する場合、それ以降の時代とは明らかに異なるシナリオ



が描かれることが多いことがわかる。それは登場する遺跡の発見に関わる「エピソード（逸話）」が描かれることである。具体的な事例をあげると、集英社の『集英社版学習漫画日本の歴史 1 日本のあけぼの』（笠原（編）・久松（画）1982）におけるの岩宿遺跡（旧石器時代）、志賀島出土金印（弥生時代）、学研の『学研まんが日本の歴史 1 日本のあけぼの 原始時代』（樋口（監修）・伊東（画）1982）における岩宿遺跡（旧石器時代）、大森貝塚（縄文時代）、大月書店の『まんが日本の歴史 1 大昔にせまる 原始』（加藤・黒羽・吉村（編）・向中野（画）1987）における明石原人の発見、岩宿遺跡の発見、座散乱木遺跡の前期旧石器発見、西八木海岸での木片発掘（旧石器時代）、集英社の『集英社版学習漫画 日本の歴史 1 日本のはじまり 旧石器時代・縄文時代』（岡村（監修）・岩井（画）1998）における岩宿遺跡、明石原人（旧石器時代）、学研教育出版の『学研まんが NEW 日本の歴史 1 国の成り立ち～旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代～』（高野（監修）・姫川（画）2012）における岩宿遺跡（旧石器時代）、大森貝塚（縄文時代）、集英社の『集英社版学習まんが日本の歴史 1 日本のあけぼの 旧石器・縄文・弥生・古墳時代』（設楽（監修）・あおき（画）2016）における岩宿遺跡（旧石器時代）がこれにあたるが、取り上げられた遺跡には古墳時代以降の遺跡は含まれていない。こうしたエピソード（逸話）には「大森遺跡を発掘したE・S・モース」、「岩宿遺跡を発見した相沢忠洋」、「明石原人を発見した直良信夫」というように人物伝としての要素もあるが、それだけでなく「考古学＝遺跡や遺物の発見」あるいは「考古学＝最古の遺跡や遺物の探求」というイメージが強いことが推測できる。こうした「エピソード（逸話）」は1980年代に目立ち、その後減少していくが、この点についても現実の「エピソード（逸話）」よりも漫画のストーリーが重視されるようになったことがその背景にあると考えられる。

このように、先史時代を扱った学習漫画では次第に本文中で遺跡が紹介されることが少なくなる傾向がみられるが、それに呼応するようにコラムや解説などで遺跡が紹介されることが多くなったことが指摘できる。このうちコラムについては、学研の『学研まんが日本の歴史 1 日本のあけぼの 原始時代』（樋口（監修）・伊東（画）1982）で岩宿遺跡のコラムが登場したのが最初である。その後、学校図書の『新まんが日本史（上）縄文時代～平安時代』（鳥海（監修）・巴（画）1988）で箸墓古墳、石舞台古墳、飛鳥板蓋宮のコラムが掲載されるなど定着するが、成美堂出版の『まんがで学習 日本の歴史第1巻 ニッポンのはじまり 旧石器時代～飛鳥時代』（小和田（監修）・岡本（画）2008）の「クローズアップ遺跡図鑑」で鹿児島県上野原遺跡、東京都中里遺跡、三内丸山遺跡、大湯環状列石、吉野ヶ里遺跡、唐古鍵遺跡、登呂遺跡、学研教育出版の『学研まんが NEW 日本の歴史 1 国の成り立ち～旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代～』（高野（監修）・姫川（画）2012）の「時代のまとめ」で多摩ニュータウンNo.72遺跡、三内丸山遺跡、加曾利北貝塚、吉野ヶ里遺跡、箸墓古墳、大仙陵古墳、三ツ池遺跡、黒井峯遺跡、大阪府島泉丸山古墳、高松塚古墳、王塚古墳が紹介されているように掲載遺跡数が増え、本文中で遺跡が紹介されるのではなくコラムや解説という形で遺跡が説明されるようになってきたことがわかる。

最後に、口絵や巻頭カラーなどで写真を用いて遺跡が紹介される事例については、わが国最初の日本史学習漫画シリーズである集英社の『学習漫画日本の歴史 1 国づくりの英雄 原始・大和時代』（和歌森（監修）・カゴ（画）1967）で「口絵写真」として仁徳天皇陵、登呂遺跡、竹原

古墳（壁画）、武井遺跡（旧石器）が掲載されている。その後もいくつかのシリーズで「巻頭カラー」は存在するものの、最近では「歴史写真館」というコーナーが設けられたり（山本（監修）・岩本（画）2015）、遺跡地図に遺跡の写真が組み込まれるようになっており、遺跡の写真の掲載方法は様変わりしている。

### 3.2 遺跡・遺物と漫画表現

日本史学習漫画で旧石器時代や縄文時代などの先史時代が描かれている巻では、当然のことながら過去の生活を可視化（復元）して表現する必要がある。しかし、その際にはその当時の考古学界では認められない説明がなされていたり、既に遺構や遺物に対する解釈が変更されているものが以前の解釈のまま漫画化されている場合もある。例えば、旧石器時代の居住地については、小学館の『学習まんが 少年少女日本の歴史 1 日本の誕生 旧石器・縄文・弥生時代』（児玉（監修）・あおむら（画）1981）に「このころの人びとは、岩かげや洞穴にすみ、かりや漁をして生活をしていました」（23頁）という記述があり、集英社の『集英社版学習漫画 日本の歴史 1日本のあけぼの 原始時代』（笠原（編）・久松（画）1982）でも「このころの人びとは洞あなや岩かげなどにすんでいました」（13頁）と記述されているように旧石器時代の人々が開地遺跡ではなく洞穴遺跡や岩陰遺跡に居住していたと説明されている。その理由として考古学者の協力がなかった可能性も考えられるが、それだけでなく当時は旧石器時代の遺跡というと北京原人の周口店遺跡やヨーロッパの洞窟遺跡の影響により「旧石器時代＝洞窟・岩陰」のイメージが強かったことを窺わせる。また、居住地や集落という観点では、縄文時代の竪穴住居の構造や屋根が茅葺きか土屋根かという問題、弥生時代の環濠集落の構造や建物のイメージなどチェックすべき部分は多い。

次に、博物館展示などでも議論となる当時の衣服については、初期の日本史学習漫画では旧石器時代・縄文時代ともに毛皮を着て腰紐で止めている服装が一般的であったが、縄文時代の服装に変化がみられたのが集英社の『集英社版学習漫画 日本の歴史 1日本のはじまり 旧石器時代・縄文時代』（岡村（監修）・岩井（画）1998）における表現である。ここでは、編布（アンギン）でできた貫頭衣のような衣服を着ており、両脇は縫い付けられ、腰紐で止められている（ただし、冬場は毛皮を着用している）。この作品以降、縄文時代のこの服装が学習漫画に定着することになるが、学研の『学研まんが NEW日本の歴史第1巻 国の成り立ち～旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代～』（高野（監修）・姫川（画）2012）、『小学館版学習まんが はじめての日本の歴史1 日本のはじまり（旧石器時代・縄文時代・弥生時代）』（松木（編）・大谷（画）2015）、『角川まんが学習シリーズ 日本の歴史1 日本のはじまり 旧石器～縄文・弥生～古墳時代』（山本（監修）・岩本（画）2015）においては、編布の衣服に土偶の文様を模したと思われる渦巻文などの文様が施されている。また、『角川まんが学習シリーズ 日本の歴史1 日本のはじまり 旧石器～縄文・弥生～古墳時代』（山本（監修）・岩本（画）2015）や『集英社版学習まんが日本の歴史1 日本のはじめの 旧石器・縄文・弥生・古墳時代』（設楽（監修）・あおき（画）2016）では顔や腕に入れ墨が描かれるようになっている。

さらに、先史時代が描かれている学習漫画の各シリーズでは、狩猟・漁撈・採集・稲作など様々な生業や当時の社会生活の様子が具体的に描かれているが、そこで使用される道具の用途や

使用法は刊行された時期あるいは研究者によって解釈が異なることがあるため、作品内での説明や描かれ方を詳細に検討する必要がある。一例をあげるならば、一般の人々にも人気のある縄文時代の土偶の用途については、小学館の『学習まんが 少女少女日本の歴史 1 日本の誕生 旧石器・縄文・弥生時代』（児玉（監修）・あおむら（画）1981）では「魔よけのお守り人形」あるいは「赤ちゃんを生んで人間をふやす力のある女性を祭って、食料と生命をいのった」（47頁）と説明されているが、「病気や悪魔よけのまじないに使用」（笠原（編）・久松（画）1982）、「土偶破壊による祈祷」（樋口（監修）・伊東（画）1982）、「お産のまじない用」（加藤・黒羽・吉村（編）・向中野（画）1987、高野（監修）・姫川（画）2012）、「土偶は身代わりとして祭りの際に破壊される」（松木（監修）・大谷（画）2015）のように作品によって様々な目的や使用方法に関する説明がなされている。

これに対し、旧石器時代や縄文時代の諸活動に対する一般的なイメージとは異なる場面が登場すると読者が興味を示すため、発掘調査などで新たに判明した知見が積極的に取り入れられることもある。その典型的な事例が狩猟や漁撈の方法に関わるものである。例えば、小学館の『小学館版学習まんが 少女少女日本の歴史 1 日本の誕生 旧石器・縄文・弥生時代』（児玉（監修）・あおむら（画）1981）や集英社の『集英社版学習漫画 日本の歴史 1 日本のあけぼの原始時代』（笠原（編集）・久松（画）1982）などの作品では、野尻湖遺跡群において発掘調査で判明した旧石器時代のナウマンゾウ狩りの様子が詳細に描かれているが、この場面についてはナウマンゾウを湖や沼地に追い込む狩猟法が、一般にイメージされている「動物を追いかける原始人」の姿とは異なり、旧石器時代人の賢さを示すことができる場面であるため先史時代を描いた学習漫画で紹介されることが多い。同様の事例としてあげられるのが縄文時代のイノシシの陥し穴猟であり、小学館の『学習まんが 少女少女日本の歴史 1 日本の誕生 旧石器・縄文・弥生時代』（児玉（監修）・あおむら（画）1981）以降、ほとんどの作品に登場する。その中には学研の『学研まんが日本の歴史 1 日本のあけぼの 原始時代』（樋口（監修）・伊東（画）1982）のように陥し穴の構造が図解で示されている作品もあり、縄文時代の狩猟法の多様性が示されている。

### 3.3 旧石器捏造事件の影響

次に、2000（平成12）年11月5日の毎日新聞のスクープによって発覚した旧石器捏造事件（前期・中期旧石器遺跡捏造事件）が日本史学習漫画に及ぼした影響について考えてみたい。この事件によって日本考古学界が大きな痛手を受けたことは改めて述べる必要はないが、この事件がわが国の教育界にも影響を与えたことを考古学研究者は忘れてはならない。実際、発覚後に歴史教科書の書き換えが行われたことは記憶に新しいが、これは学習漫画においても同様の対応を迫るものであった。

まず、ここでは発行年代が比較的古い日本史学習漫画における捏造遺跡の記述について検証してみたい。1988（昭和63）年に刊行されたあかね書房の『まんがで学習 年表日本の歴史 1 原始～奈良時代』（平野（監修）・カゴ・ムロタニ他（画）1988）の本文に「その大陸から、日本に人間がわたってきて住みはじめたのは、数十万年も前のことだといえます」（8頁）とあり、①馬場壇遺跡、②岩宿遺跡、③牛川人、④三ヶ日人と浜北人、⑤早水台遺跡が紹介されている（10

～11頁)。また、同年に刊行された学校図書の『新まんが日本史(上) 縄文時代～平安時代』(鳥海(監修)、巴(画)1988)の本文にも「日本列島に人間がすがたをみせたのがいつごろか…13万年前かもしれない」(7頁)という記述があり、「おもな遺跡」の地図に馬場壇A遺跡、年表にも数十万年前に「日本最古の石器あらわれる」という記述があるように、既に1988(昭和63)年には学習漫画に捏造遺跡の影響がみられることがわかる。ちなみに座散乱木遺跡の年代が4万年前と発表されたのが1981(昭和56)年、馬場壇A遺跡の年代が20万年前と発表されたのが1984(昭和59)年のことである。その後、集英社の『集英社版学習漫画 日本の歴史年表』(笠原(編)、岩井他(画)1993)の年表に「前20万ころ 旧石器人が日本最古の石器を残す(座散乱木遺跡と馬場壇A遺跡)」(17頁)とあり、馬場壇A遺跡と座散乱木遺跡の石器の写真(同頁)が掲載されている。また、人気キャラクターを登場させた小学館の『小学館版学習まんが ドラえもんびっくり日本の歴史1』(大塚(監修)、田中(画)1996)の「遺跡マップ」に馬場壇A遺跡や高森遺跡が掲載され、捏造発覚後に刊行された集英社の『満点ゲットシリーズ こちら葛飾区亀有公園前派出所 両さんの日本史大達人 ①縄文時代～平安時代』(吉村(監修)、池田(画)2001)においても日本の旧石器時代の年代を「約10数万年前～1万3000年前」としている。

また、石ノ森章太郎の大作『マンガ日本の歴史』(石ノ森1989～1993)にも捏造事件の深刻な影響がみられる。1993(平成5)年に刊行された『45 旧石器人の登場』の「第2章 日本列島と日本人の成立」において高森遺跡の発掘調査現場が登場し、50万年前の原人の遺跡として紹介されており、巻末の年表にも捏造遺跡である高森遺跡のほかに中峰遺跡や馬場壇A遺跡も記述されている。その後1997(平成9)年から刊行された文庫版においては、同じ発掘調査現場の場面が「高森遺跡」ではなく「金取遺跡」に変更され年代も「50万年前」(42頁)から「5万年、古くみると8万年」に書き換えられている(文庫版44頁)。また、「宮城県の近辺で原人から旧人の段階の遺跡がたくさんみついているのは、この一帯に5～4, 50万年前の地層が現在の地表近くに露出しているせいだ」(43頁)が「日本で4万年前くらいの遺跡から見ついている岩手・東京・神奈川・長野・宮崎などでは、意識的に古い時期の地層まで掘り下げて調査しているからだ」(文庫版45頁)と変更されているが、本文中では「遺跡というのは当時の地表面が現在の地表面の近くに しかも良い保存状態で残っている時だけ発見されるんだ」(文庫版45頁)とも説明されており、苦しい辻褃合わせがなされている。さらに、文庫版では石器の実測図の差し替えが行われ(文庫版46・47頁)、石器に付着した脂肪酸に関する記述がなくなり(文庫版47頁)、年表の約50万年前の「日本で旧石器時代人の生活が始まる。剥片石器などを使って狩猟生活を営む」という記述や高森遺跡、中峰C遺跡、馬場壇A遺跡の遺跡名が消去されている。ただし、その後捏造であることが判明した「宮城県栗山町の麓では、5キロも離れた所から出土した石器同士がぴったり付いて、同じ材料から打ち欠いて作られたことが証明された」(文庫版91頁)という説明はなぜかそのまま残っている。なお、石ノ森自身は捏造発覚前の1998(平成10)年に逝去しているので、これらの変更には関わっていないことになる。

これに対し、より影響が大きかった日本史学習漫画が岡村道雄監修の『集英社版学習漫画 日本の歴史 1日本のはじまり 旧石器時代・縄文時代』(岡村(監修)・岩井(画)1998)であろう。本書では複数の捏造遺跡が登場する。1998(平成10)年の初刷では「第1章 人類の誕生と進化」の中の「日本列島の原人たち」に「60万年ごろ、アジアにいた原人はナウマンゾウなど大



型動物をおって、まだ陸つづきだった日本列島にやってきました」(22頁)という記述があり、同様に「日本史ものしり相談室」でも「日本でもっとも古い石器が、宮城県上高森遺跡の60万年前の地層から発見されました」(160頁)という記述がある。また、「日本列島の原人たち」のコラム(「日本最古の石器」)において約60万年前とされていた上高森遺跡の日本最古の石器の出土状況の写真が掲載され(25頁)、遺跡地図にも12万年前の馬場壇A遺跡出土石器の写真(31頁)が掲載されている。また、初刷と2006(平成18)年の第26刷を比較してみると、捏造発覚によって変更が加えられた箇所が少なくとも11カ所あることが確認できるが<sup>(11)</sup>、集英社はこれらの変更について特に説明はしておらず初版扱いのまま発売を続けている。さらに、2007(平成19)年に本シリーズは新編集され文庫化されたが(岡村(監修)、岩井(画)2007)、その中には捏造者の身近にいた岡村による「こぼれ話 あってはならない旧石器遺跡捏造事件」(46頁)という第三者的立場からの解説がある。なお、岡村が執筆し、捏造発覚直前の2000(平成12)年10月24日に刊行された講談社の一般書籍である『日本の歴史 第01巻 縄文の生活誌』(岡村2000)においても「第1章 「原人」たちの秋」の内容が捏造遺跡によって構成されているが、これについては2000年11月8日付で岡村および「日本の歴史」編集委員会・同編集部による「読者の皆様へ—藤村新一氏の「事件」について」という小冊子が付けられ、2002(平成14)年に改訂版(岡村2002)が刊行されている。

旧石器捏造事件(前期・中期旧石器時代遺跡捏造事件)の影響は、これ以外にも歴史教科書の記述変更が迫られた学校教育の場(前・中期旧石器問題調査研究特別委員会2003)や博物館展示など多方面に及んでいる。本稿では今まで検証されることがなかった学習漫画の世界でも様々な対応を迫られることになったことを示したが、その背景に最新の発掘調査の成果を盛り込みたいという考古学者の意向があったことは想像に難くない。しかしながら、結果的にそれが裏目に出たことになる。

## 4. まとめ

本稿作成にあたって先史時代を対象とした日本史学習漫画を詳細に検討してみると、それらの学習漫画は実に多くの情報を含んでいることがわかった。今回の検討結果を簡単にまとめると次のようになる。

- ①学習漫画発祥の地であるわが国の日本史学習漫画シリーズには50年以上の歴史がある。
- ②最初の日本史学習漫画シリーズである集英社の『学習漫画日本の歴史』(和歌森(監修)・カゴ(画)1967)の第1巻「国づくりの英雄 原始・大和時代」は、神武東征・日本武尊・神功皇后などの日本神話を中心に展開されており、縄文時代については回想シーンで当時の生活が語られる程度である。
- ③日本史学習漫画シリーズは1980年代になって各出版社が参入してわが国に普及した。その特徴は1980年代頃までは説明・解説型が中心であったが、1990年代からはストーリー重視の作

(11) 「第1章 人類の誕生と進化」の「日本列島の原人たち」のタイトルは、なぜかそのまま残されている。

品が目立つようになってきた。その結果、本文中で遺跡が紹介・解説されることが減り、遺跡の解説はコラムや解説コーナーで行われるようになった。また、1990年代中頃から子どもに人気の漫画キャラクターを解説役として登場させるシリーズが現れ、2010年代後半になるとカラー版や1ページあたりのコマ数が少ない作品、さらに読者に小学校低学年を想定した作品も登場するようになった。

- ④1980年代末頃から考古学者が原案を作成したり、監修するシリーズが増加したため、新たに発見され話題となった遺跡や当時の考古学の研究成果が積極的に作品に取り入れられるようになった。しかし、その結果「旧石器捏造遺跡」やその年代が紹介されるという弊害を生むことになった。

最後に、今回は検討することができなかった基本的な問題として、当然のことではあるが学習漫画の内容がその当時の歴史教科書を反映していることがあげられる。そして、その歴史教科書の背後に文部科学省の学習指導要領<sup>(12)</sup>の存在があることも指摘しておきたい。考古学と歴史教科書の問題については、1998（平成10）年の小学校学習指導要領改訂にともなって2002（平成14）年から小学校社会科教科書の本文から旧石器・縄文時代の記述が削除されたことに対して日本考古学協会は検討委員会を設置し、適切な取り扱いを求める様々な活動を行った。その結果、2008（平成20）年改訂の小学校学習指導要領で縄文時代を扱うことが示されたが（日本考古学協会社会科・歴史教科書等検討委員会2016）、こうした問題は当然のことながら学習漫画にも影響を与えていると考えられる。そして、実際に学習漫画には教育現場からの指導という立場の協力者が存在する作品もあるように、学習漫画の制作には監修者・作者（漫画家）・シナリオライターだけでなく様々な人々が関わっているが、それらの関係者間の問題についても今後の検討課題である。

考古学や歴史学を志す学生や専門家だけでなく、1950年代以降に生まれた人々にとって日本史学習漫画は懐かしい存在である。多くの人々に影響を与えた日本史学習漫画を研究史料として扱うことによって考古学や歴史学が戦後歩んできた歴史を再確認するとともに、学習漫画が考古学や歴史学と日本社会との関係を探るための貴重な史料であることを改めて強調したい。

(12) 学習指導要領はほぼ10年ごとに改訂されている。その時期は、①昭和33～35年改訂（実施は小学校：昭和36年度、中学校：昭和37年度、高等学校：昭和38年度（学年進行））、②昭和43～45年改訂（実施は小学校：昭和46年度、中学校：昭和47年度、高等学校：昭和48年度（学年進行））、③昭和52～53年改訂（実施は小学校：昭和55年度、中学校：昭和56年度、高等学校：昭和57年度（学年進行））、④平成元年改訂（実施は小学校：平成4年度、中学校：平成5年度、高等学校：平成6年度（学年進行））、⑤平成10～11年改訂（実施は小学校：平成14年度、中学校：平成14年度、高等学校：平成15年度（学年進行））、⑥平成15年の学習指導要領のねらいの一層の実現の観点からの一部改正、⑦平成20～21年改訂（実施は小学校：平成23年度、中学校：平成24年度、高等学校：平成25年度（年次進行））※小・中は平成21年度、高は平成22年度から先行実施）である。

## 漫画作品

- 青山剛昌 (原作)、山岸栄一・斉藤むねお他 (画) 2017 『名探偵コナン歴史まんが 日本史探偵コナン』小学館
- 赤塚不二夫1981 『ニャロメのおもしろ数学教室』パシフィカ
- 石ノ森章太郎1986 『マンガ日本経済入門』日本経済新聞社
- 石ノ森章太郎 (画)・児玉幸多 (監修) 1989～1993 『マンガ日本の歴史』中央公論社 (文庫版1997～1999)
- 石ノ森章太郎 (画)・児玉幸多 (監修)・義江彰夫 (原案)・仲倉重郎 (脚本)・1989 『マンガ日本の歴史 1 秦・漢帝国と稲作を始める倭人』中央公論社
- 石ノ森章太郎 (画)・児玉幸多 (監修)・義江彰夫 (原案)・仲倉重郎 (脚本) 1989 『マンガ日本の歴史 2 邪馬台国と卑弥呼のまつりごと』中央公論社
- 石ノ森章太郎 (画)・児玉幸多 (監修)・義江彰夫 (原案)・仲倉重郎 (脚本) 1990 『マンガ日本の歴史 3 興亡する倭の五王と大嘗の祭』中央公論社
- 石ノ森章太郎 (画)・児玉幸多 (監修)・義江彰夫 (原案)・仲倉重郎 (脚本) 1990 『マンガ日本の歴史 4 王統譜を編み上げる大和王権』中央公論社
- 石ノ森章太郎 (画)・児玉幸多 (監修)・春成秀爾 (原案)・南部英夫 (脚本) 1993 『マンガ日本の歴史 45 旧石器人の登場』中央公論社
- 石ノ森章太郎 (画)・児玉幸多 (監修)・春成秀爾 (原案)・長谷部利朗 (脚本) 1993 『マンガ日本の歴史 46 縄文時代の始り』中央公論社
- 石ノ森章太郎 (画)・児玉幸多 (監修)・春成秀爾 (原案)・三原庸子 (脚本) 1993 『マンガ日本の歴史 47 縄文社会の繁栄』中央公論社
- 石ノ森章太郎 (画)・児玉幸多 (監修)・春成秀爾 (原案)・仲倉重郎 (脚本) 1993 『マンガ日本の歴史 48 縄文時代の終末』中央公論社
- 市原市埋蔵文化財センター2001～2006 『発掘ってなあに』シリーズ (創刊号 住居跡篇、第2号 貝塚篇、第2号別冊 なるみちゃんの貝輪教室、第3号 縄文土器篇、第3号別冊 なるみちゃんの土器づくり教室、第4号 弥生土器篇、特別号 発掘のしごと篇)
- 伊藤純郎 (監修)、堀江卓 (画) 1996 『まんがおもしろ日本史 人々のくらしと経済 第1巻 原始・古代から中世まで』ぎょうせい
- 大塚初重 (総監修)、村野守美 (画) 1993 『歴史まんが「古代の日本」壺の巻 縄文賛歌 狩りと採集』福武書店
- 大塚初重 (監修)、田中道明 (画)、藤子・F・不二雄 (キャラクター原作) 1996 『小学館版学習まんが ドラえもんのおもしろ日本の歴史 1 岩宿遺跡から平安京』小学館
- 岡村道雄 (監修)・小林隆 (シナリオ)・岩井 溪 (画) 1998 『集英社版学習漫画 日本の歴史 1 日本の はじまり 旧石器時代・縄文時代』集英社
- 岡村道雄 (監修)・小林隆 (シナリオ)・岩井 溪 (画) 1998 『集英社版学習漫画 日本の歴史 2 イネと 国づくり 弥生時代・古墳時代I』集英社
- 小和田哲男 (責任監修)・小杉あきら (画) 1995 『マンガ 日本の歴史がわかる本 古代～南北朝時代 篇』三笠書房
- 小和田哲男 (監修)・大悠社 (大島善徳) (シナリオ)・岡本正明 (画) 2008 『まんがで学習 日本の歴史 第1巻 ニッポンのはじまり 旧石器時代～飛鳥時代』成美堂出版
- 笠原一男 (責任編集・考証)・笠原一男・毛利和夫・小栗純子 (立案・構成)・柳川創造 (シナリオ・立案・構成)・久松文雄 (画) 1982 『集英社版学習漫画 日本の歴史 1 日本のあけぼの 原始時代』集英社
- 笠原一男 (責任編集)・小栗純子・柳川創造 (立案・構成)・古谷毅他 (文)・岩井溪他 (画) 1993 『学習漫画 日本の歴史年表』集英社
- 加藤文三・黒羽清隆・吉村徳蔵 (編集委員)・向中野義雄 (画) 1987 『まんが日本の歴史 1 大昔にせまる 原始』大月書店
- 河合 敦 (監修)・チーム・ガリレオ (シナリオ)・もとじろう (画) 2017 『歴史漫画タイムワープシリー

- ズ 縄文世界へタイムワープ』朝日新聞出版
- 河合 敦（監修）・チーム・ガリレオ（シナリオ）・市川智茂（画）2018『歴史漫画タイムワープシリーズ  
通史編1 弥生時代へタイムワープ』朝日新聞出版
- 熊野正也（監修）・大塚初重（総監修）・村野守美（画）1993『歴史まんが「古代の日本」 式の巻 弥生  
革命 稲作文化の展開』福武書店
- 児玉幸多（監修）・西原和海（シナリオ）・あおむら純（画）1981『小学館版学習まんが 少年少女日本の  
歴史 1日本の誕生 旧石器・縄文・弥生時代』小学館
- 佐藤ヒロシ（画）・高山宗東（原案）2018『たのしく学べる新編まんが 日本史上 縄文・弥生時代～鎌  
倉幕府の成立』三笠書房
- 佐鳴予備校（監修）・あさみわかな（画）2010『スタディスタジアム 第1巻 弥生時代～鎌倉時代（初）』  
旺文社
- 佐原 真（監修）・あおむら純（画）1984『小学館版学習まんが 少年少女人物日本の歴史 縄文人の生  
活』小学館
- 佐原 真（監修）・児玉幸多（総監修）・藤子・F・不二雄（原作）・あおむら純（画）1995『小学館版学習  
まんが ドラえもん 人物日本の歴史 卑弥呼』小学館
- 佐原 真（監修・考証・執筆）・たかしよいち（シナリオ）・あおむら純（画）2008『小学館版学習まんが  
少年少女日本の歴史 1日本の誕生 旧石器（岩宿）・縄文（紋）・弥生時代』小学館
- 設楽博己（監修）・星井博文（シナリオ）・あおきてつお（画）2016『集英社版学習まんが 日本  
の歴史 1日本のあけぼの 旧石器・縄文・弥生・古墳時代』集英社
- 小学館2013～2014『マンガ古典文学』
- そにしけんじ2014～2018『ねこねこ日本史』実業之日本社
- たかしよいち（原作）、吉川豊（画）1991『まんが世界のふしぎ物語』理論社（①ピラミッドのひみつ、  
②ミイラと墓どろぼう、③王家の谷にねむる宝、④なぞの少年王ツタンカーメン、⑤まぼろしの  
王国トロイア、⑥よみがえる黄金の宝、⑦ジャングルにきえたマヤ、⑧インカ帝国のひみつ、⑨  
ねむりからさめたミイラ、⑩日本にのこるなぞのミイラ）
- 高野和弘（監修）・大石学（総監修）・榎本事務所（シナリオ）・姫川 明（画）2012『学研まんが NEW  
日本の歴史 1国の成り立ち～旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代～』学研教育出版
- 中央公論新社1999～2001『マンガ日本の古典』
- つばいこう（画）2010『朝日小学生新聞の学習まんが きのうのあしたは… 日本の歴史第1巻 日本  
の始まり 旧石器時代～奈良時代』朝日学生新聞社
- 手塚治虫（監修）・原麻紀夫（シナリオ）・石原しゅん（画）・樺山絃一（編集参与）1983～85『世界の歴  
史』中央公論社
- 東野治之（監修）・青山剛昌（原作）・平良隆久（シナリオ）・阿部ゆたか・丸伝次郎（画）2003『学習ま  
んがシリーズ 名探偵コナン推理ファイル 日本史の謎1』小学館
- 鳥海 靖（監修）・柳川創造（シナリオ）・巴里夫（画）1988『新まんが日本史（上）縄文時代～平安時  
代』学校図書
- 浜学園（監修）・藤子・F・不二雄（キャラクター原作）2014『ドラえもんの社会科おもしろ攻略 日本  
の歴史1 旧石器時代～平安時代』小学館
- 樋口清之（監修）・伊東章夫（画）1982『学研まんが日本の歴史 1日本のあけぼの 原始時代』学研
- 平野英雄（監修）・カゴ直利・ムロタニツネ象他（画）1988『まんがで学習 年表日本の歴史』あかね書  
房
- 藤子・F・不二雄（監修）・日能研（指導）・いそほゆうすけ（画）1994『ドラえもんの学習シリーズ ド  
ラえもんの社会科おもしろ攻略 日本の歴史がわかる1 縄文時代～室町時代』小学館
- 水木しげる1995『コミック昭和史』講談社
- 松木武彦（監修）・山本博文（総監修）・三条和都（シナリオ）・大谷じろう（画）2015『小学館版学習ま  
んが はじめての日本の歴史 1日本のはじまり（旧石器時代・縄文時代・弥生時代）』小学館
- ムロタニツネ象（画）・滝口宏（解説）1971『漫画日本史』集英社
- 大和市教育委員会・横田とくお（画）・佐野真治（脚本）1990～1994『まんが大和の歴史』シリーズ（第



- 1巻 先土器時代、第2巻 縄文・弥生・古墳時代、第3巻 奈良・平安・鎌倉・室町・戦国時代、  
第4巻 江戸時代、第5巻 明治・大正・昭和時代)
- 山本博文 (監修)・上原侑・おぎのひとし・砂崎良・元井朋子 (シナリオ)・岩本佳浩 (画) 2015『角川  
まんが学習シリーズ 日本の歴史』KADOKAWA
- 吉村作治 (監修)・深沢真由美 (画) 1999『すばらしい世界遺産 古代遺跡の旅』集英社
- 吉村作治 (監修)・西公平 (画) 2011『集英社版学習漫画 世界の伝記NEXT ハワード・カーター』集  
英社
- 吉村武彦 (監修)・池田俊一 (画)、秋本治 (キャラクター原作) 2001『満点ゲットシリーズ こちら葛  
飾区亀有公園前派出所 両さんの日本史大達人1 縄文時代～平安時代』集英社
- 吉村武彦 (監修)・白井儀人 (原作)・西沢あつろう (画) 2006『クレヨンしんちゃんのなんでも百科シ  
リーズ クレヨンしんちゃんの日本の歴史 おもしろブック』双葉社
- 和歌森太郎 (監修)・カゴ直利 (画) 1967『学習漫画日本の歴史 1国づくりの英雄 原始・大和時代』  
集英社

## 参考文献

- 家島明彦2007「心理学におけるマンガに関する研究の概観と展望」『京都大学大学院教育学研究科紀要』  
53号
- 石子 順1982『漫画のある教室 教育に生かす知恵と工夫』あゆみ出版
- 磯貝芳郎1964「漫画の心理学」『児童心理』27巻9号
- 伊藤 遊2013「「学習マンガ」研究序説—教育・キャラクター・リアリティー—」『国際マンガ研究3日韓漫  
画研究』京都精華大学国際マンガ研究センター
- 岡村道雄2000『日本の歴史 第01巻 縄文の生活誌』講談社
- 岡村道雄2002『日本の歴史 第01巻 縄文の生活誌 改訂版』講談社
- 岡村道雄2010『旧石器遺跡捏造事件』山川出版社
- 尾濱邦子・阿部敬信・宮崎栞恋2017「学習内容理解に及ぼす学習マンガの効果—小学校第5学年の説明  
文を題材として—」『別府大学短期大学紀要』第36号
- 櫻井準也2014『考古学とポピュラー・カルチャー』同成社
- 櫻井準也2015「遺跡調査の社会学—漫画と考古学—」『尚美学園大学総合政策研究紀要』第26号
- 櫻井準也2016「日本の漫画作品に描かれた考古学者 (1) —1950～70年代—」『尚美学園大学総合政策研  
究紀要』第28号
- 櫻井準也2017a「日本の漫画作品に描かれた考古学者 (2) —1980年代—」『尚美学園大学総合政策研究紀  
要』第29号
- 櫻井準也2017b「日本の漫画作品に描かれた考古学者 (3) —1990年代—」『尚美学園大学総合政策研究紀  
要』第30号
- 櫻井準也2018「日本の漫画作品に描かれた考古学者 (4) —2000年代—」『尚美学園大学総合政策研究紀  
要』第32号
- 清水 勲2009『四コマ漫画 北斎から萌えまで』岩波書店
- 前・中期旧石器問題調査研究特別委員会2003「中学社会 (歴史的分野) の2000年度・2002年度使用教科  
書の比較」『前・中期旧石器問題の検証』日本考古学協会
- 竹内オサム1995『戦後マンガ50年史』筑摩書房
- 玉田圭作2008「マンガを利用した学習の可能性—「マンガで心理学」と「マンガを心理学」の観点から  
—」『マンガ研究』vol.13
- 西川宏1986「学校教育と考古学」近藤義郎他 (編)『岩波講座日本考古学 7現代と考古学』岩波書店
- 日本考古学協会社会科・歴史教科書等検討委員会2014「小・中学校段階における歴史学習と考古学の役  
割—日本列島における旧石器時代の取り扱いについて考える—」『歴史教科書を考える』第12号、  
日本考古学協会

- 日本考古学協会社会科・歴史教科書等検討委員会2015「第2回シンポジウム「小・中学校段階における歴史学習と考古学の役割」」『歴史教科書を考える』第13号、日本考古学協会
- 日本考古学協会社会科・歴史教科書等検討委員会2016a「社会科・歴史教科書等検討委員会のこれまでの活動」『歴史教科書を考える』第14号、日本考古学協会
- 日本考古学協会社会科・歴史教科書等検討委員会2016b「中学校社会科（歴史）における弥生・古墳時代について」『日本考古学協会第82回総会研究発表要旨』日本考古学協会
- 日本考古学協会社会科・歴史教科書等検討委員会2017「中学校社会科（歴史）にみる旧石器～古墳時代の扱い」『日本考古学協会第83回総会研究発表要旨』日本考古学協会
- 日本考古学協会社会科・歴史教科書等検討委員会2018「中学校社会科（歴史）における中世以降の考古学資料の扱い」『日本考古学協会第84回総会研究発表要旨』日本考古学協会
- 橋本明子（山岡由美訳）2017『日本の長い戦後 敗戦の戦後・トラウマはどう語り継がれているか』みすず書房
- 浜田陽太郎1973「マンガの教育学—マンガと人間形成—」『児童心理』27巻9号
- 向後智子・向後千春1998「マンガによる表現が学習内容の理解と保持に及ぼす影響」『日本教育工学雑誌』22巻2号
- 村田夏子1993「教授方略としての漫画の効果」『読書科学』37巻4号
- 山田浩之2003「マンガはどう語られてきたのか？」小谷敏（編）『子ども論を読む』世界思想社
- 吉田泰幸2017「縄文人はどのように描かれてきたのか」金沢大学人間社会研究域付属国際文化資源学研究センター『文化資源学セミナー「考古学と現代社会」』
- 吉村和真2009「マンガと教育」夏目房之介・竹内オサム（編著）『マンガ学入門』ミネルヴァ書房
- 米谷茂則2009「マンガ読書からマンガ読書学習へ」『読書科学』52巻3号